

第2章. 都市の現状・

課題および市民意向【両計画共通】

第2章. 都市の現状・課題および市民意向【両計画共通】

1. 都市の現状・課題

- 都市の課題は、本市の現状に対し、将来人口の推計結果や社会経済情勢の変化を踏まえ、将来の見通しを想定し、整理しました。

表 都市の課題（１／３）

視点	課題	現状・将来見通し
人口減少・高齡化・コミュニティ	①人口減少に対応した市街地中心部等の拠点性の維持	● 市街地の中心部など、人口集積がみられる地区ほど人口が減少していくことが予想され、拠点性が低下していくことが懸念されることから、人口減少下にあっても市民の生活を支え続けることができる市街地を維持していく必要があります。
	②コミュニティやまちづくり活動の維持・活性化	● 人口減少・高齡化にともない、コミュニティやまちづくり活動が停滞していくことが懸念されることから、未来を担う若い世代はもちろんのこと、元気な高齡者が活躍し、積極的に社会参加や地域貢献ができる環境を作っていく必要があります。
土地利用	③市街地の外延化の抑制に向けた適切な土地利用の規制・誘導	● 本市の豊かな自然は、環境や生物多様性の保全、防災、景観、レクリエーションなど、多様な機能を有していることから、本市の貴重な資源として引き続き保全していく必要があります。 ● 能代地域の中心市街地や二ツ井地域中心部の活性化に向け、両地域中心部への都市機能や居住の誘導など、土地利用による支援の取組を進めていく必要があります。 ● 産業振興および雇用の確保を継続していくため、新たな工業団地の整備に向けた調査や検討が必要です。 ● 市街地の居住環境の保全または業務の利便性向上、市街地周辺の自然環境の保全を図るため、今後とも、市街地の外延化を抑制していく必要があります。 ● 都市的土地利用として将来的な利活用の見込みがない地区においては、用途地域の見直しを検討することも必要です。
	④増加が予想される空き地・空き家等の低未利用土地への対応	● 人口・世帯数の減少にともない、空き地・空き家等の低未利用土地が時間的・空間的にランダムに発生・増加（＝都市のスポンジ化）していくことが予想されるため、住環境の悪化など市街地機能の低下を予防していく必要があります。

表 都市の課題（2/3）

視点	課題	現状・将来見通し
都市機能	⑤市街地中心部における都市機能の誘導促進および農山村集落における日常生活に必要な機能の維持	● 人口の減少、地域経済の低迷、商業施設の郊外立地等起因し、能代地域の中心市街地や二ツ井地域中心部に立地する生活サービス施設の利用者数の減少による施設の廃止、サービス水準の低下が懸念されるため、中心性・拠点性の維持・向上に向けた生活サービス施設の誘導等を進めていく必要があります。 ● 主要な農山村集落内に立地する生活サービス施設は、日常生活のセーフティネットとして役割を果たしているため、これらの機能を維持していくことも必要です。
地域経済	⑥地域経済の維持・活性化	● 人口減少・高齢化により産業活動の担い手が不足するなど、各産業への影響が顕在化しており、事業継続支援や企業誘致活動等を継続しながら、潜在労働力など、新たな担い手の確保を進めていく必要があります。
都市交通	⑦公共交通の利用促進およびサービスの維持・向上	● 人口減少にともなう利用者数の減少により、公共交通の路線廃止や運行本数の減少等によるサービスの低下が懸念されます。また、高齢化の進行や運転免許返納件数の増加により、自動車を運転できなくなった場合の外出機会の減少も懸念されます。そのため、日常生活の移動手段のひとつとして、公共交通サービスの維持に向けた取組が必要です。
都市施設	⑧都市施設の整備推進および見直し	● 未着手となっている都市計画道路の多くが、都市の拡大を前提に決定されたものであり、今後は、社会情勢の変化を踏まえ、長期未着手区間を対象とした都市計画の見直しや廃止、存続区間の計画的な整備を進めていく必要があります。 ● 都市計画公園は、市民のレクリエーションや憩い、良好な景観の形成など多様な機能を有していることから、今後は、未開設範囲の計画的な整備のほか、各公園が保有する機能の維持・向上を進めていく必要があります。 ● 下水道（公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽）は、生活環境の改善や防災・減災機能等の向上等の役割を担う重要なインフラであるものの、受益者からの負担金や使用料によって整備や維持管理が成り立っていることから、今後は、人口減少等の社会情勢の変化にも対応した見直しを行いながら、計画的な整備を進めていく必要があります。 ● 整備が完了している道路や公園、市場等の都市施設は、その機能を維持していくため、計画的な維持管理や修繕・更新を行っていく必要があります。

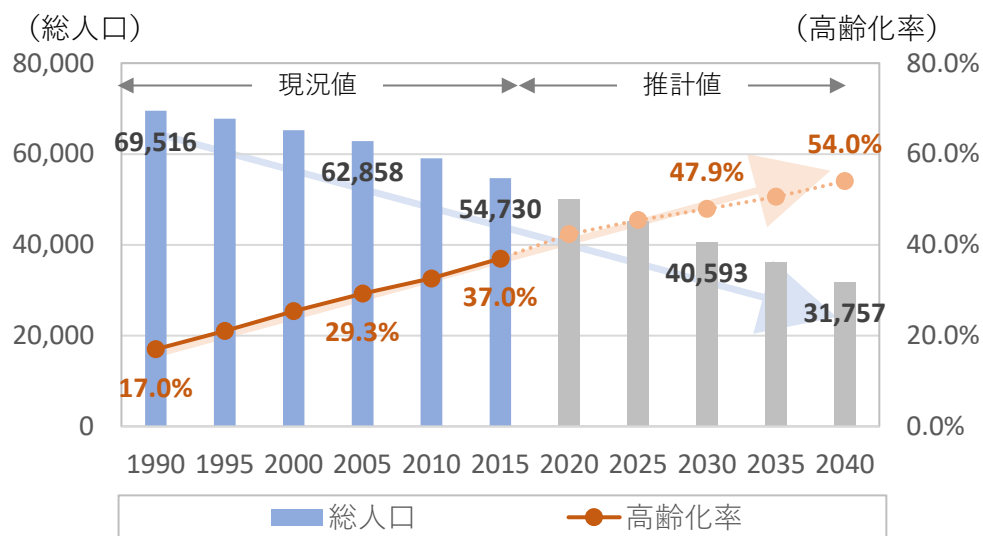
表 都市の課題（3/3）

視点	課題	現状・将来見通し
防災	⑨安全・安心な生活環境の確保	● 本市は、海・川・山を有しており、豊かな自然に恵まれている一方で、自然災害が発生した場合に被害が発生するリスクが高いといえます。そのため、各種の自然災害に対し、防災性を高めるために必要なハード整備のほか、避難行動を円滑にするための組織づくりや情報発信、意識啓発など、ソフト対策も合わせた総合的な取組を進めていくことが必要です。
地域資源	⑩地域資源の活用	● 既に活用されている地域資源の更なる活用や、地域資源と捉えていながら十分な活用に至っていない地域資源の磨き上げ等により、交流人口を拡大していくことが必要です。
財政	⑪持続可能な財政運営	● 人口減少にともなう自主財源の減少、後期高齢者の増加等にもなう民生費の増加、公共施設等の老朽化にともなう維持・更新費の増加など、厳しい財政状況が予想されています。そのため、限られた財源の中でも必要な公共サービスを維持できるよう、公共施設やインフラの施設のあり方を検討していくことが必要です。 ● 利用されていない公共の土地・建物の利活用に関しても、将来の財政負担を考慮した慎重な対応を進めていくことが必要です。

1-1. 人口減少・高齢化・コミュニティ

課題①	現状・将来見通し
人口減少に対応した市街地中心部等の拠点性の維持	● 総人口は、過去 25 年で約 1.5 万人減少し、今後 25 年間でさらに 2.3 万人の減少が予測されます。 ● 高齢化率は 2015 年（平成 27 年）で 37.0%であり、2040 年（令和 22 年）には 54.0%まで上昇することが予想されます。 ● 人口は、用途地域が指定された市街地部では能代、向能代・落合、東能代、ニツ井の各地区に人口のまとまりが確認されます。また、用途地域外では、浅内、檜山、鶴形、常盤、富根にまとまりのある主要な集落が分布しています。 ● 今後は、市街地の中心部など、人口集積がみられる地区ほど人口が減少していくことが予想され、拠点性が低下していくことが懸念されることから、人口減少下にあっても市民の生活を支え続けることができる市街地を維持していく必要があります。

図 人口推移および将来人口推計

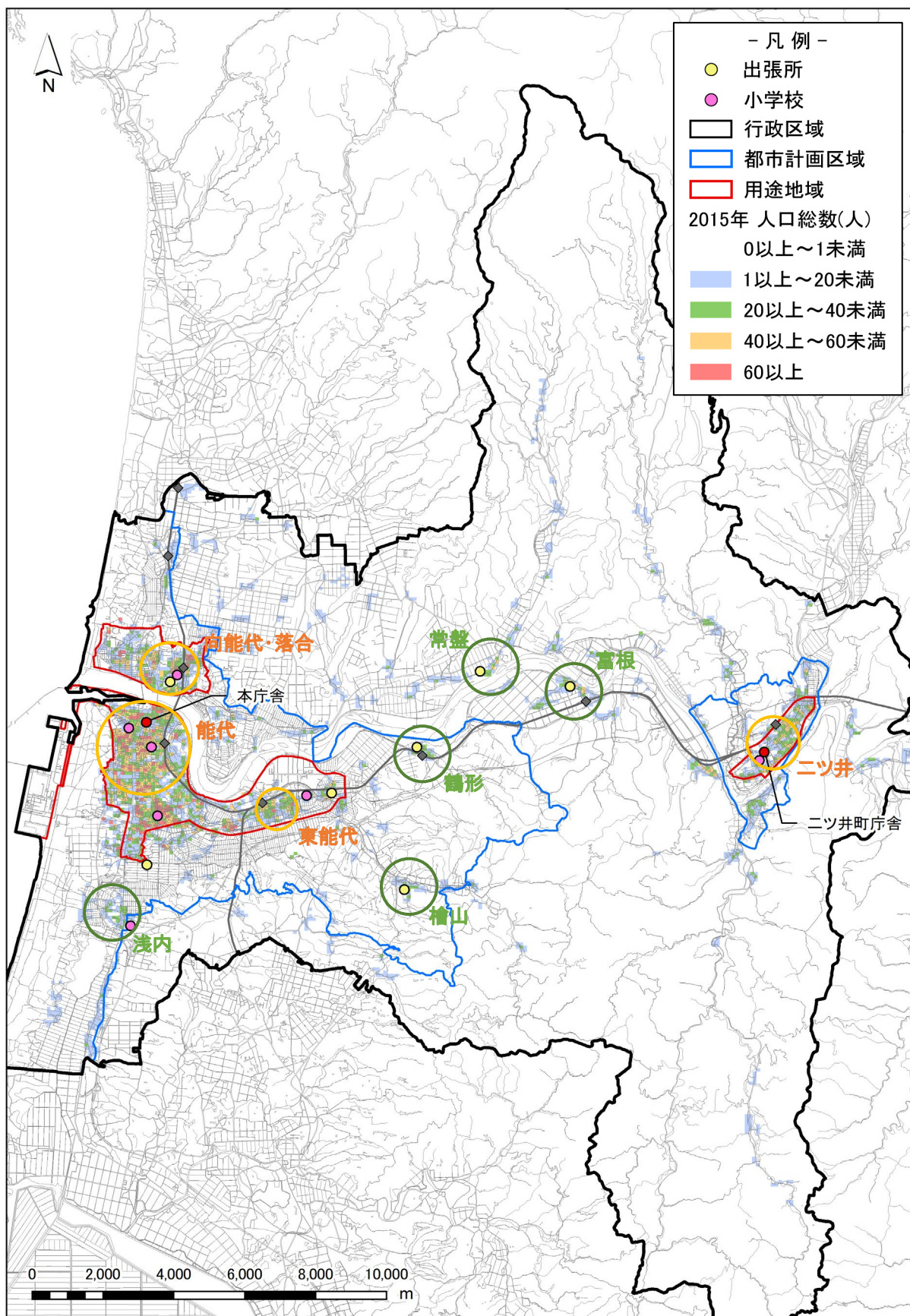


出典：国勢調査（現況値）、国立社会保障・人口問題研究所（推計値）

※2006 年 3 月以前のデータは旧ニツ井町を含む

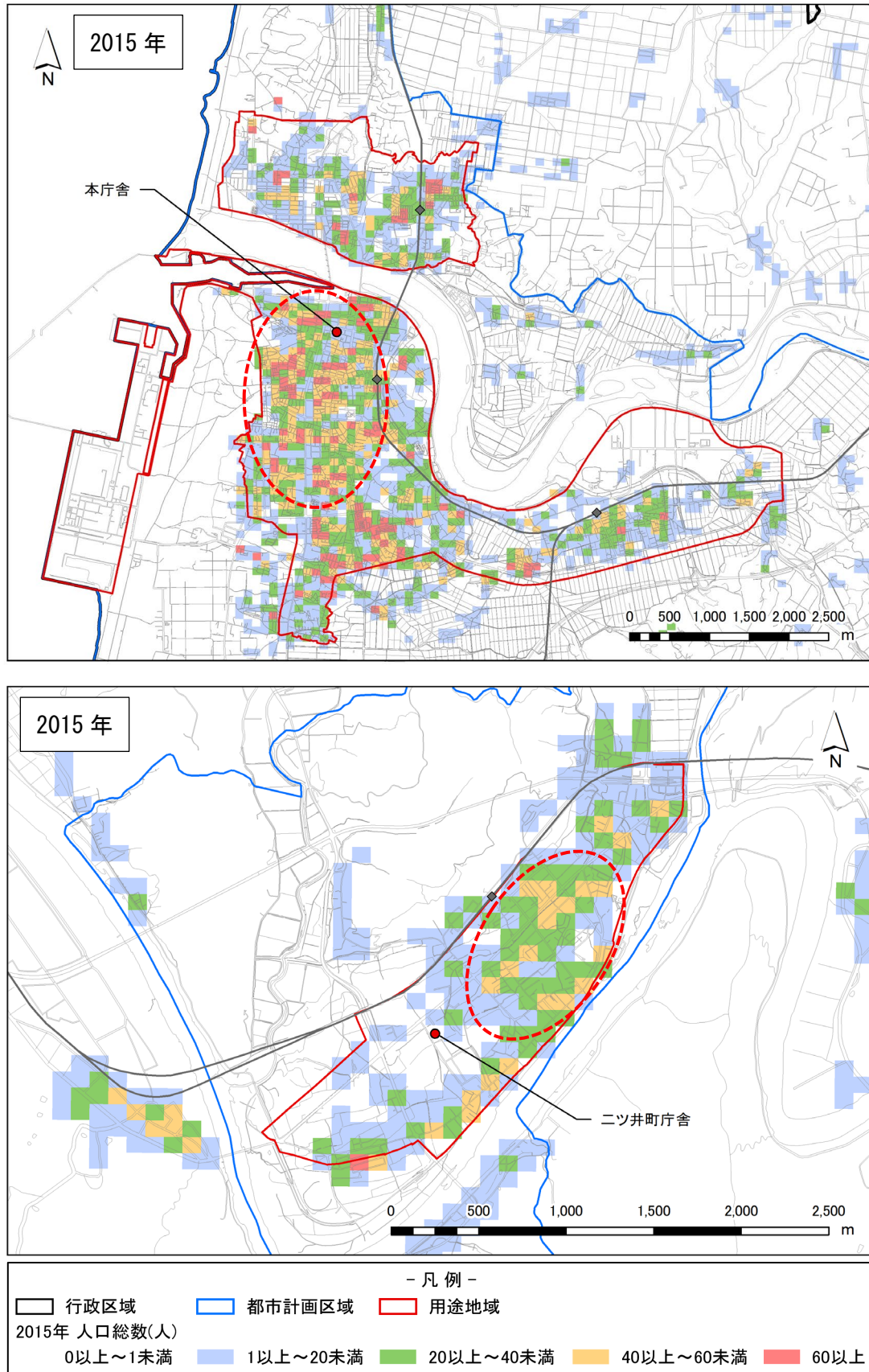
※総人口は、年齢不詳人口を含む

図 人口分布



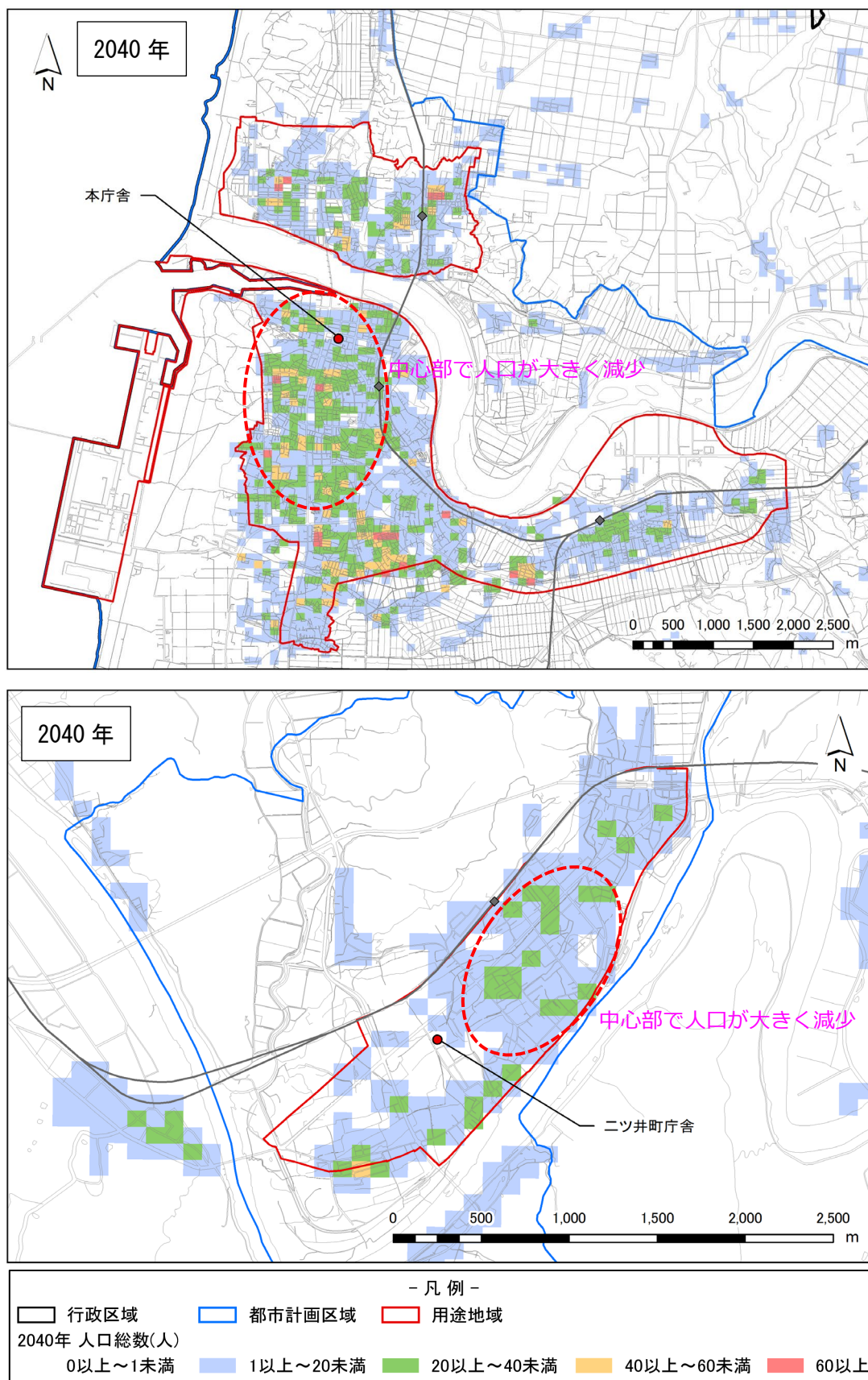
出典：2015 年国勢調査 100m メッシュ

図 人口分布（現況）（上：能代市街地、下：二ツ井市街地）



出典：2015 年国勢調査 100m メッシュ

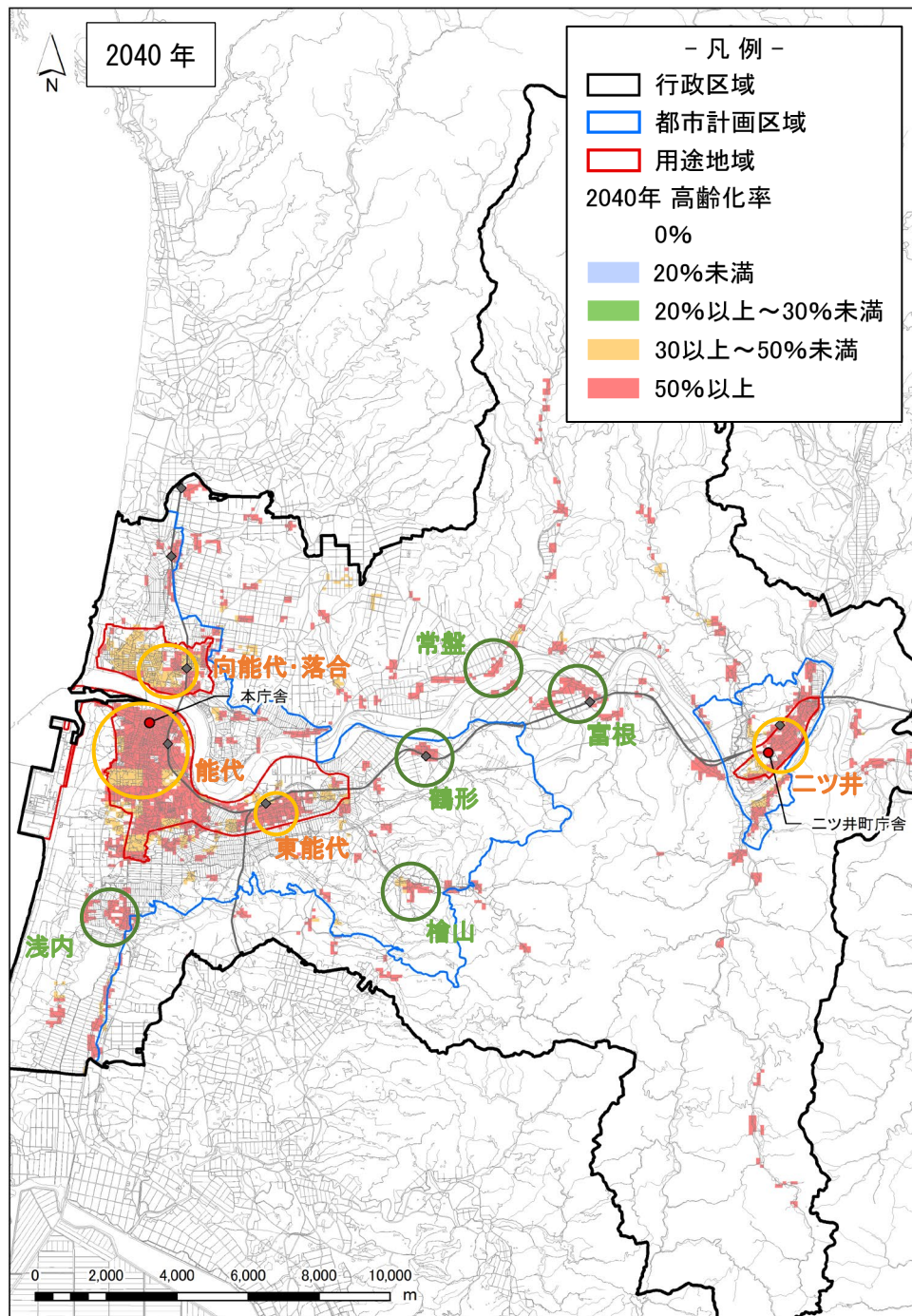
図 人口分布（将来）（上：能代市街地、下：二ツ井市街地）



出典：2040 年図は、2015 年国勢調査 100m メッシュを基に推計

課題②	現状・将来見通し
コミュニティやまちづくり活動の維持・活性化	● 高齢化率は、ほとんどの地域で2040年（令和22年）までに、半数以上の居住者が高齢者になることが予想されます。 ● 本市は、市民参画のまちづくりを進めており、檜山、常盤、鶴形、東能代の各地域では、まちづくり協議会が組織されています。 ● 今後は、人口減少・高齢化にともない、コミュニティやまちづくり活動が停滞していくことが懸念されることから、未来を担う若い世代はもちろんのこと、元気な高齢者が活躍し、積極的に社会参加や地域貢献ができる環境を作っていく必要があります。

図 高齢化率分布（将来）

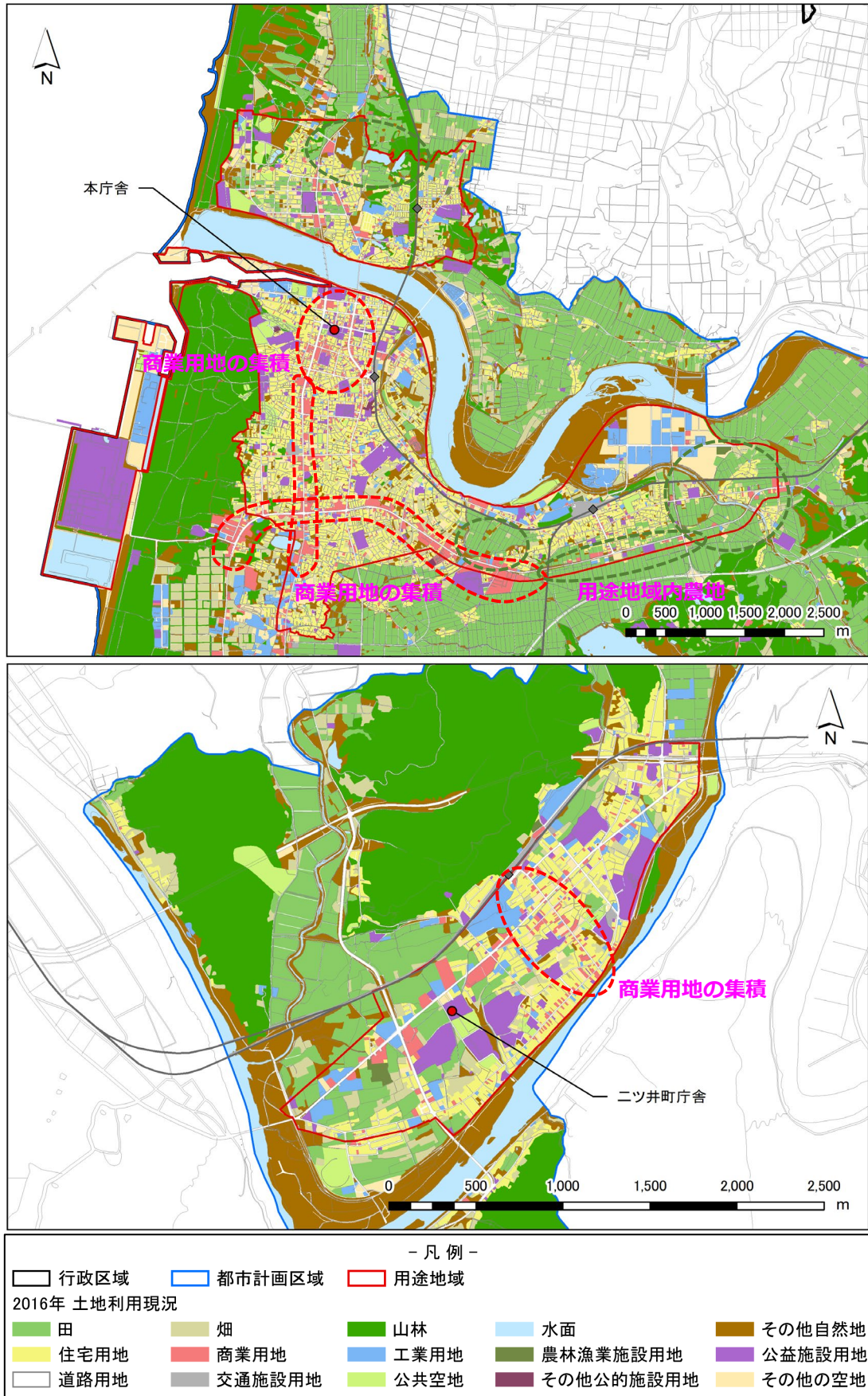


出典：2015年国勢調査100mメッシュを基に推計

1-2. 土地利用

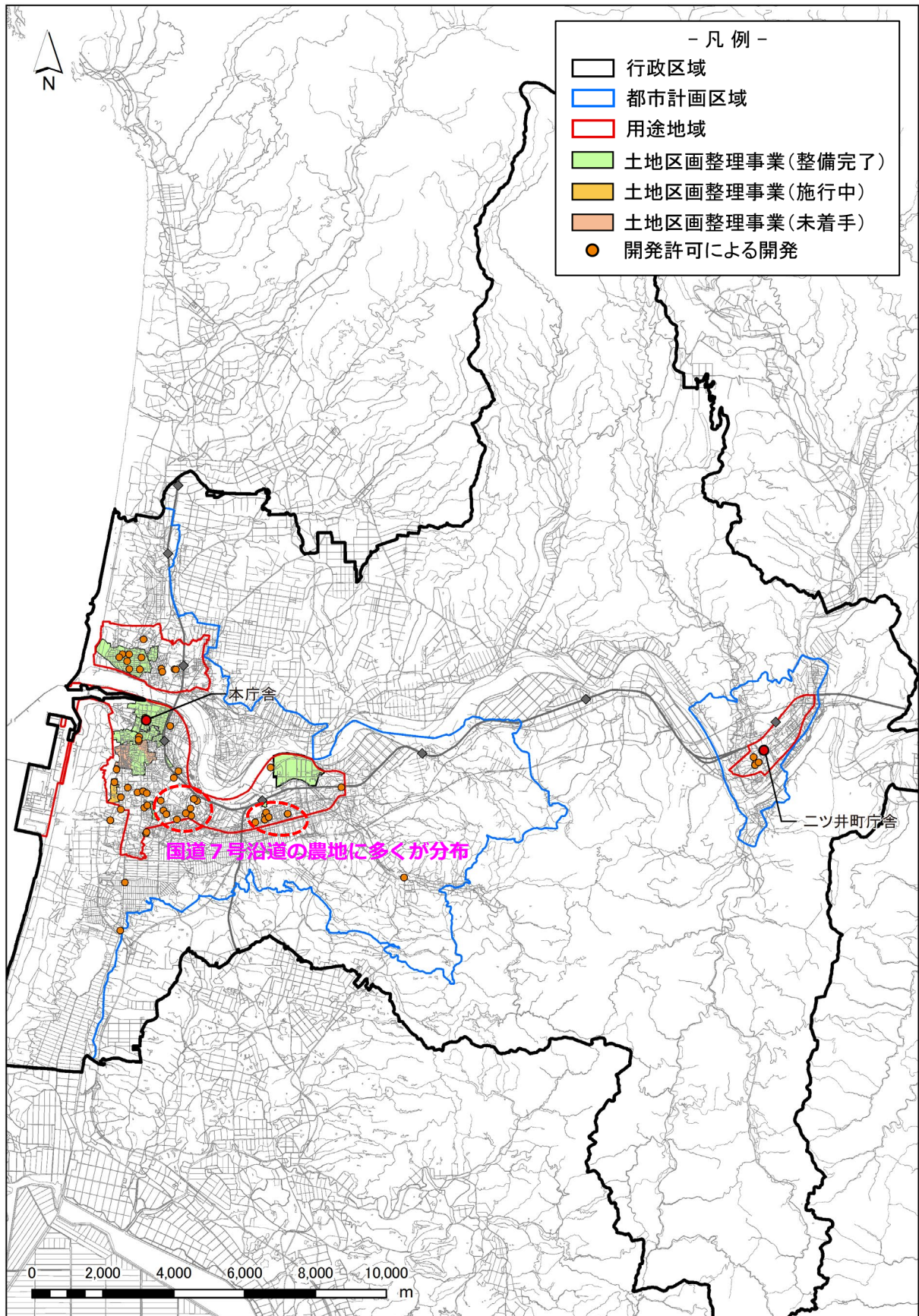
課題③	現状・将来見通し
市街地の外延化の抑制に向けた適切な土地利用の規制・誘導	【自然的土地利用（市域全体）】 ● 本市は、面積の約 60%が森林、約 18%が農地であり、豊かな自然環境に囲まれた都市です。 ● これらの自然は、環境や生物多様性の保全、防災、景観、レクリエーションなど、多様な機能を有していることから、本市の貴重な資源として引き続き保全していく必要があります。 【都市的土地利用（都市計画区域内）】 ● 市内各駅を中心に、住宅を中心とした市街地が形成されています。 ● 主要な商業地は、畠町や柳町、国道 101 号沿道等の中心市街地、二ツ井駅周辺、国道 7 号の沿道に形成されています。また、能代地域の中心市街地活性化、二ツ井地域中心部の活性化に取り組んでいます。 ● 今後は、能代地域の中心市街地や二ツ井地域中心部の活性化に向け、両地域中心部への都市機能や居住の誘導など、土地利用による支援の取組を進めていく必要があります。 ● 工業地は、能代港周辺および能代工業団地等を中心に形成されています。 ● 今後は、産業振興および雇用の確保を継続していくため、新たな工業団地の整備に向けた調査や検討が必要です。 ● 用途地域内であっても、国道 7 号の沿道や用途地域縁辺部等を中心に、田畑等の農地が分布しています。 ● 市街化動向をみると、おおむね用途地域内で発生しています。宅地開発や農地転用は、国道 7 号沿道の農地を中心に分布しています。また、新築のうち、商業目的の建物は能代地域の中心市街地、二ツ井地域中心部、国道 7 号沿道を中心に分布しています。 ● 今後は、市街地の居住環境の保全または業務の利便性向上、市街地周辺の自然環境の保全を図るため、市街地の外延化の抑制を継続していく必要があります。 ● また、都市的土地利用として将来的な利活用の見込みがない地区においては、用途地域の見直しを検討することも必要です。

図 土地利用現況図（上：能代市街地、下：ニツ井市街地）



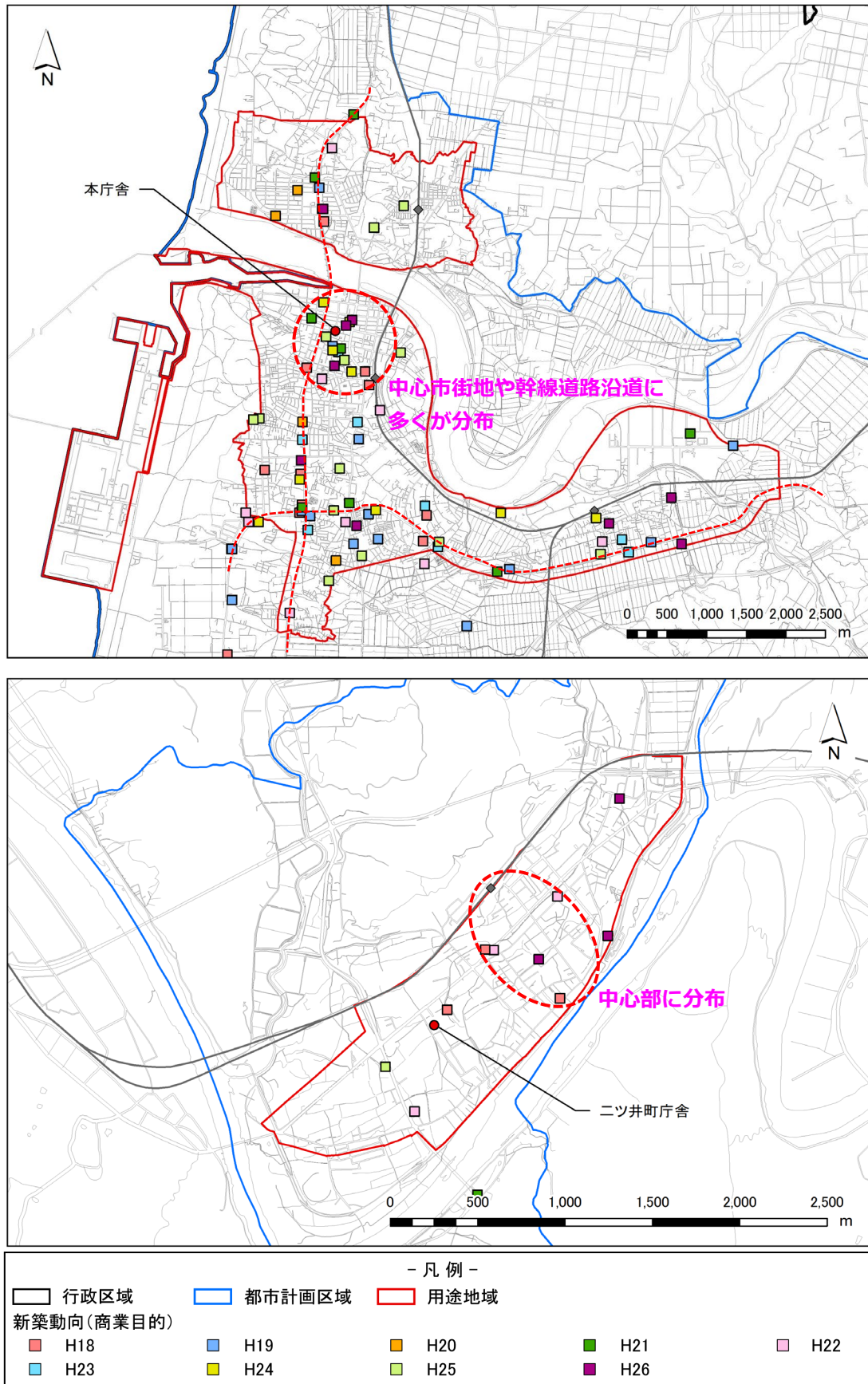
出典：都市計画基礎調査（2016年3月）

図 開発許可分布図（2006～2014 年度）



出典：都市計画基礎調査（2017 年 3 月）

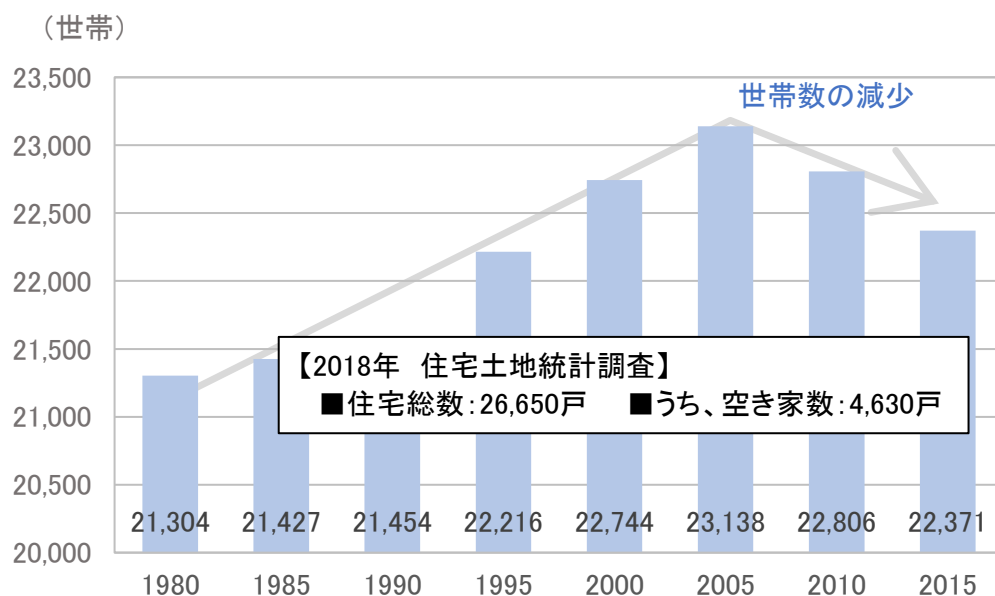
図 商業目的の新築動向（上：能代市街地、下：二ツ井市街地）



出典：都市計画基礎調査（2017年3月）

課題④	現状・将来見通し
増加が予想される空き地・空き家等の低未利用土地への対応	● 総世帯数は、2005年（平成17年）以降減少に転じ、2015年（平成27年）で22,371世帯となっています。一方、市内の総住宅数は2018年（平成30年）で26,650戸であり、余剰の住宅ストック（＝空き家）が発生している状況です。 ● 空き家は、住宅の立地件数の多い中心市街地で多く分布しています。また、空き地等の低未利用地は、能代港周辺および能代工業団地を除き、小規模のものが用途地域全域にわたり分布している状況です。 ● 今後は、人口・世帯数の減少にともない、空き地・空き家等の低未利用土地が時間的・空間的にランダムに発生・増加（＝都市のスポンジ化）していくことが予想されるため、住環境の悪化など市街地機能の低下を予防していく必要があります。

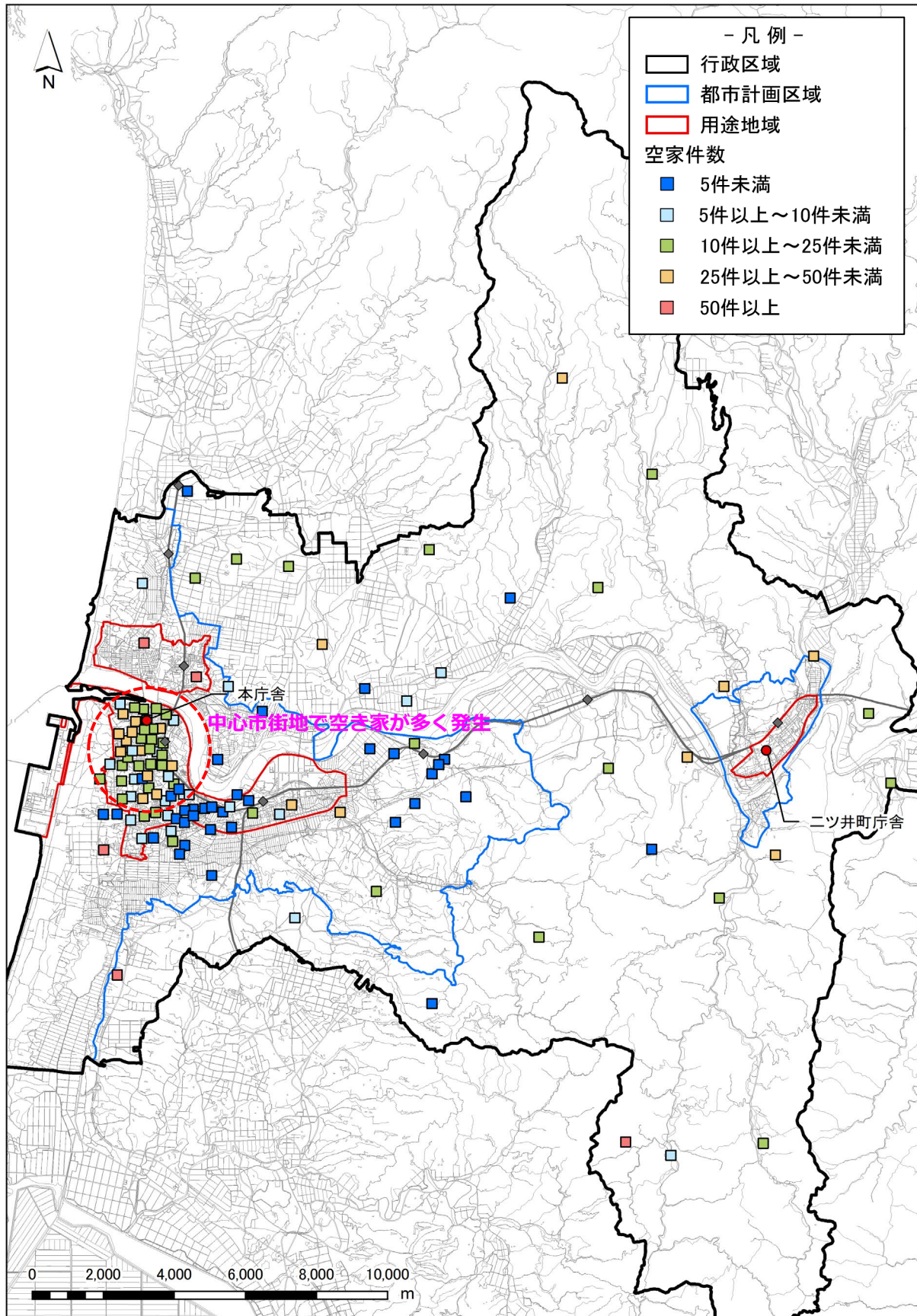
図 総世帯数の推移



出典：各年国勢調査

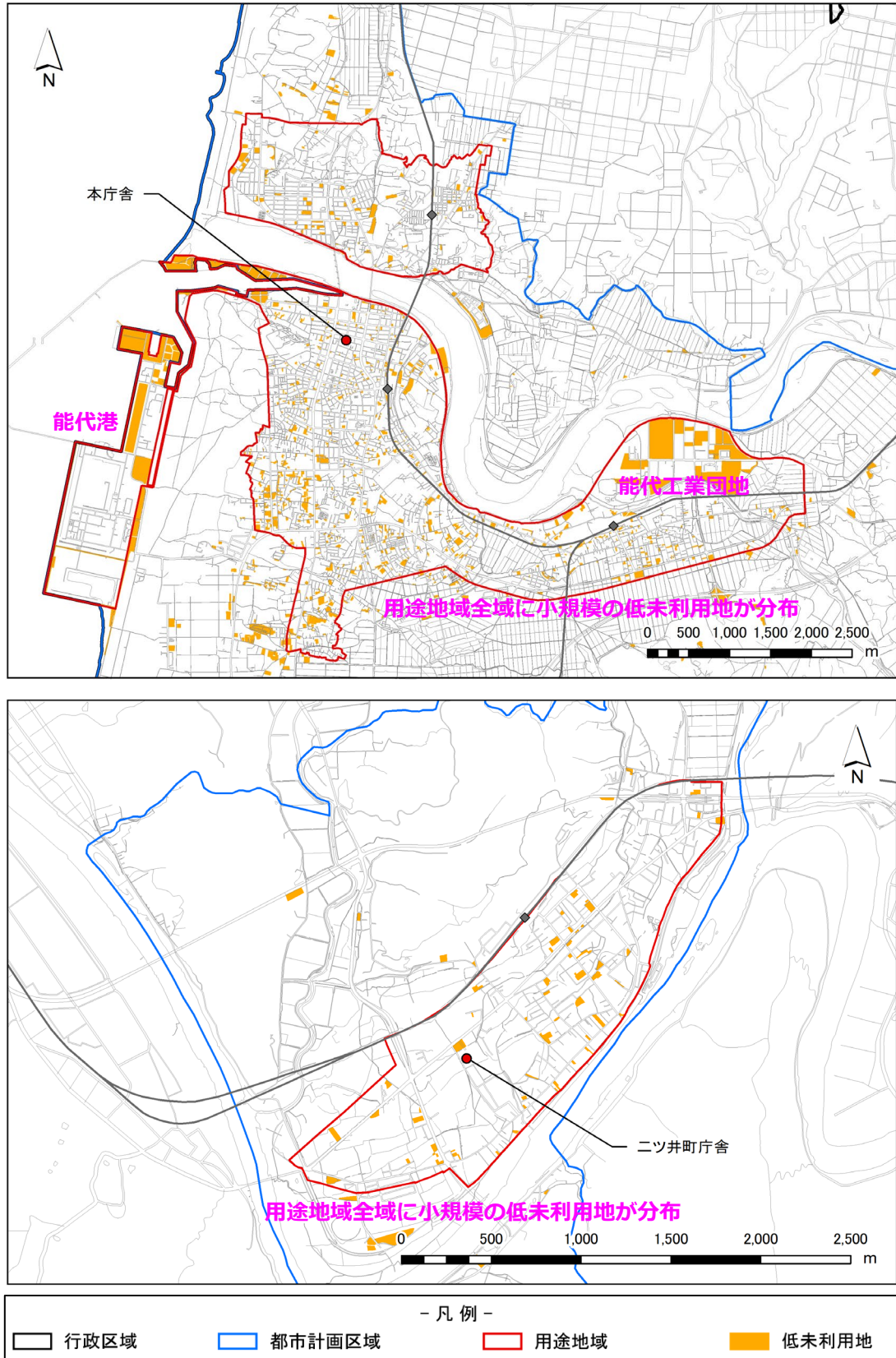
※2006年3月以前のデータは、旧二ツ井町を含む

図 空き家の分布状況（大字単位・2019 年度）



出典：能代市資料（2020 年 3 月）
※プロット位置は、大字の代表地点である

図 低未利用地の分布状況



出典：都市計画基礎調査（2016年3月）

※低未利用地：平面駐車場、改変工事中の土地、未利用地

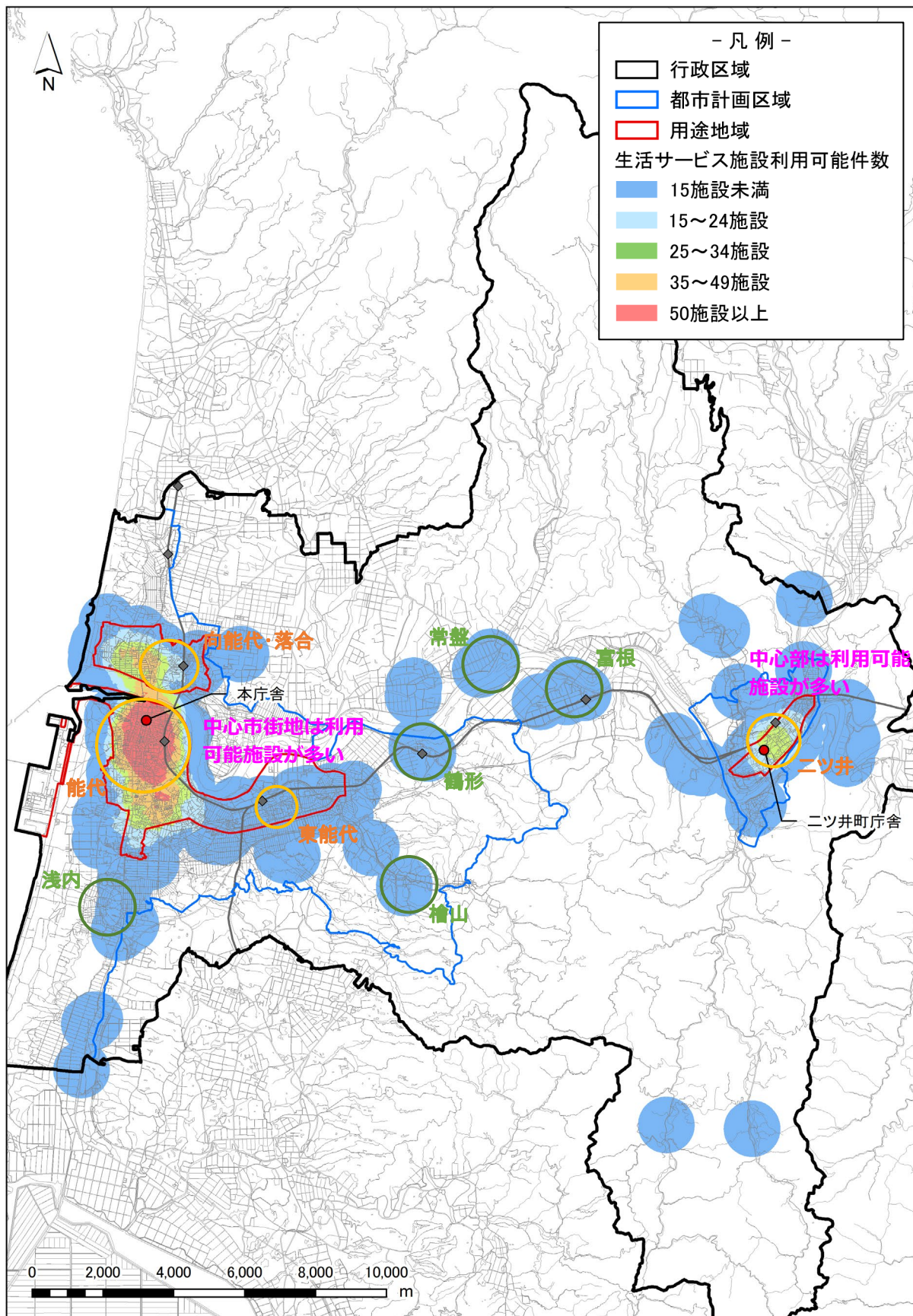
1-3. 都市機能

課題⑤	現状・将来見通し
市街地中心部における都市機能の誘導促進および農山村集落における日常生活に必要な機能の維持	● 生活に密着した各種施設の分布状況をみると、能代地域の中心市街地や二ツ井地域中心部に、その多くが立地しています。 ● 各施設からの徒歩利用圏（800m）の重複状況（＝様々な施設を利用できる利便性の高い範囲）は、能代地域の中心市街地や二ツ井地域の中心部で他の地区よりも高くなっており、中心性・拠点性が確認されます。 ● 今後は、人口の減少、地域経済の低迷、商業施設の郊外立地等に起因し、能代地域の中心市街地や二ツ井地域中心部に立地する生活サービス施設の利用者数の減少による施設の廃止、サービス水準の低下が懸念されるため、中心性・拠点性の維持・向上に向けた生活サービス施設の誘導等を進めていく必要があります。 ● また、主要な農山村集落内に立地する生活サービス施設は、日常生活のセーフティネットとして役割を果たしているため、これらの機能を維持していくことも必要です。

表 整理を行った生活サービス施設の種類の

施設区分	分類	施設区分	分類
行政施設	市役所	医療施設等	病院
	地域振興局		医科診療所
	市民サービスセンター		調剤薬局
	地域センター	商業施設	スーパーマーケット
	公民館		ドラッグストア
介護・福祉施設	老人福祉施設等		コンビニエンスストア
	・ 地域包括支援センター		ホームセンター
	・ 指定居宅介護支援事業所	金融施設	郵便局
	・ 通所介護施設		銀行
	・ 訪問介護施設		信用金庫等
	・ 入所介護施設		JAバンク
	・ 多機能型施設	教育・文化・交流施設	小学校
子育て支援施設	障がい福祉サービス等施設		中学校
	子育て世代包括支援センター		高等学校
	放課後児童クラブ		特別支援学校
	認可保育所		専門学校等
	認定こども園		図書館
	子育て支援センター		博物館等
	母子生活支援施設		文化ホール
	助産施設		集会施設
	児童館		体育館

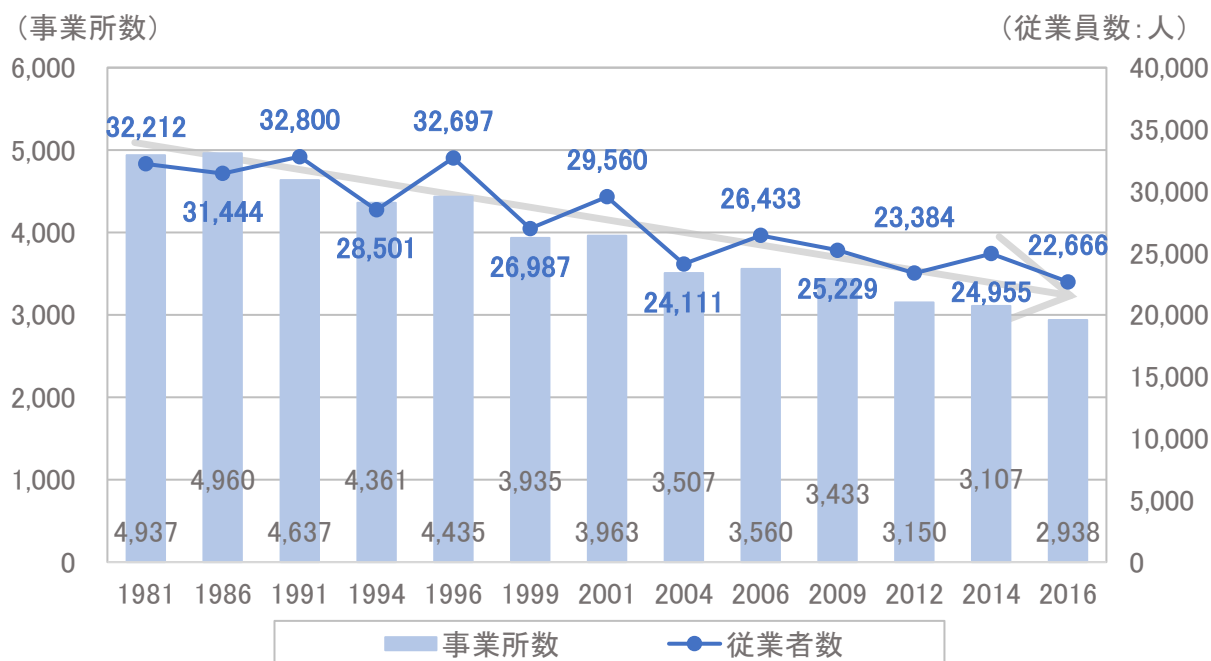
図 生活サービス施設の利用可能件数



1-4. 地域経済

課題⑥	現状・将来見通し
地域経済の維持・活性化	● 本市の事業所数、従業者数は、増減を繰り返しながらも、全体としては減少傾向にあり、2016年（平成28年）で2,938事業所、22,666人となっています。 ● 事業所は、能代地域の中心市街地や二ツ井地域中心部に多く立地していますが、2006年（平成18年）と2016年を比較すると、事業所数の減少が確認されます。一方、能代港周辺や能代工業団地では、事業所数の増加が確認されます。 ● 小売業の事業所数および年間商品販売額をみると、市全体で減少傾向にあります。また、中心市街地内に限定すると、市全体の減少率を上回って推移しており、市全体に占める中心市街地の割合（シェア）も低下傾向にあります。 ● 今後は、人口減少・高齢化により産業活動の担い手が不足するなど、各産業への影響が顕在化しており、事業継続支援や企業誘致活動等を継続しながら、潜在労働力など、新たな担い手の確保を進めていくことが必要です。

図 全産業の事業所数および従業者数の推移

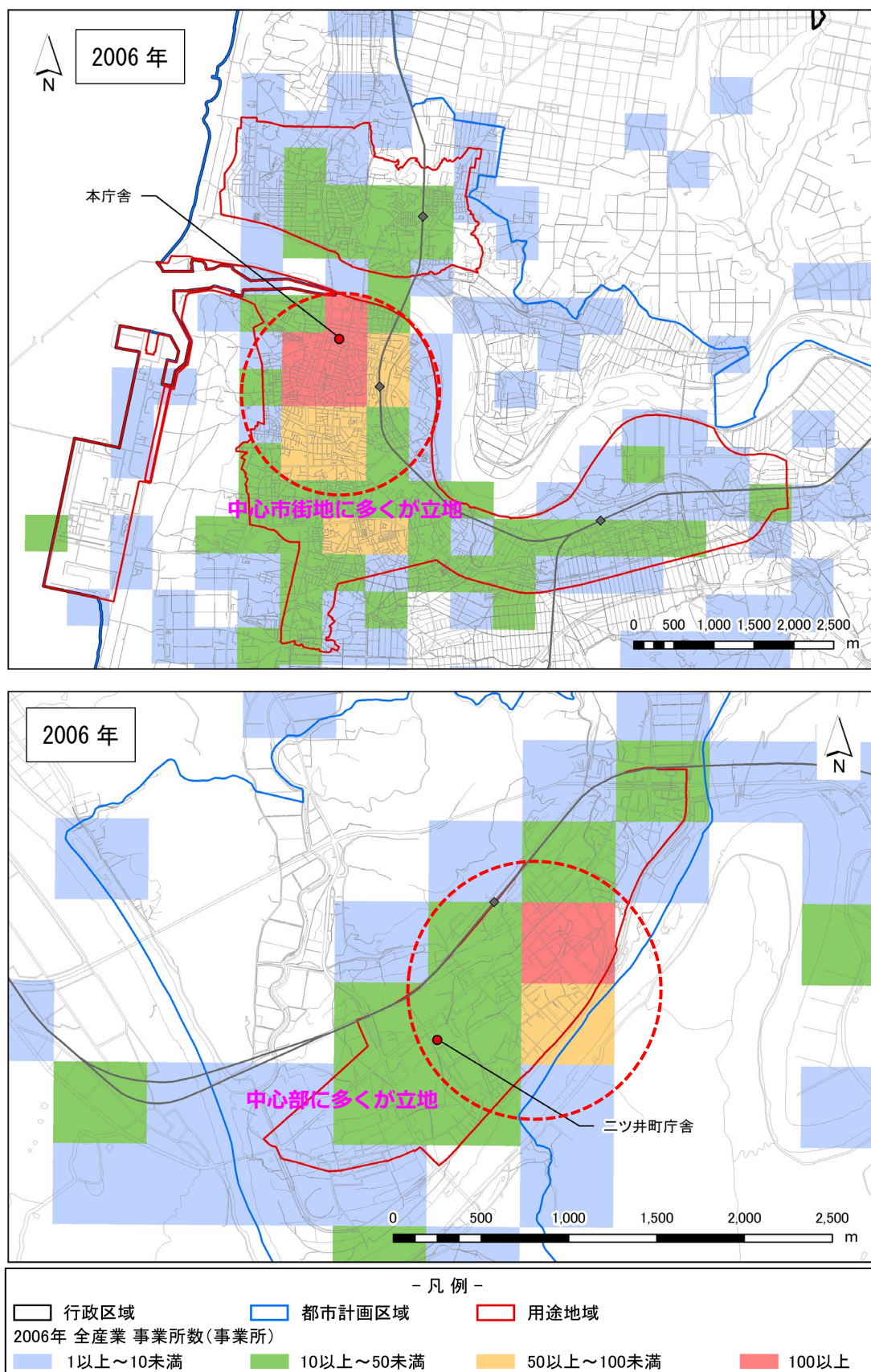


出典：事業所・企業統計調査（2006年以前）、経済センサス（2009年以降）

※公務を除く

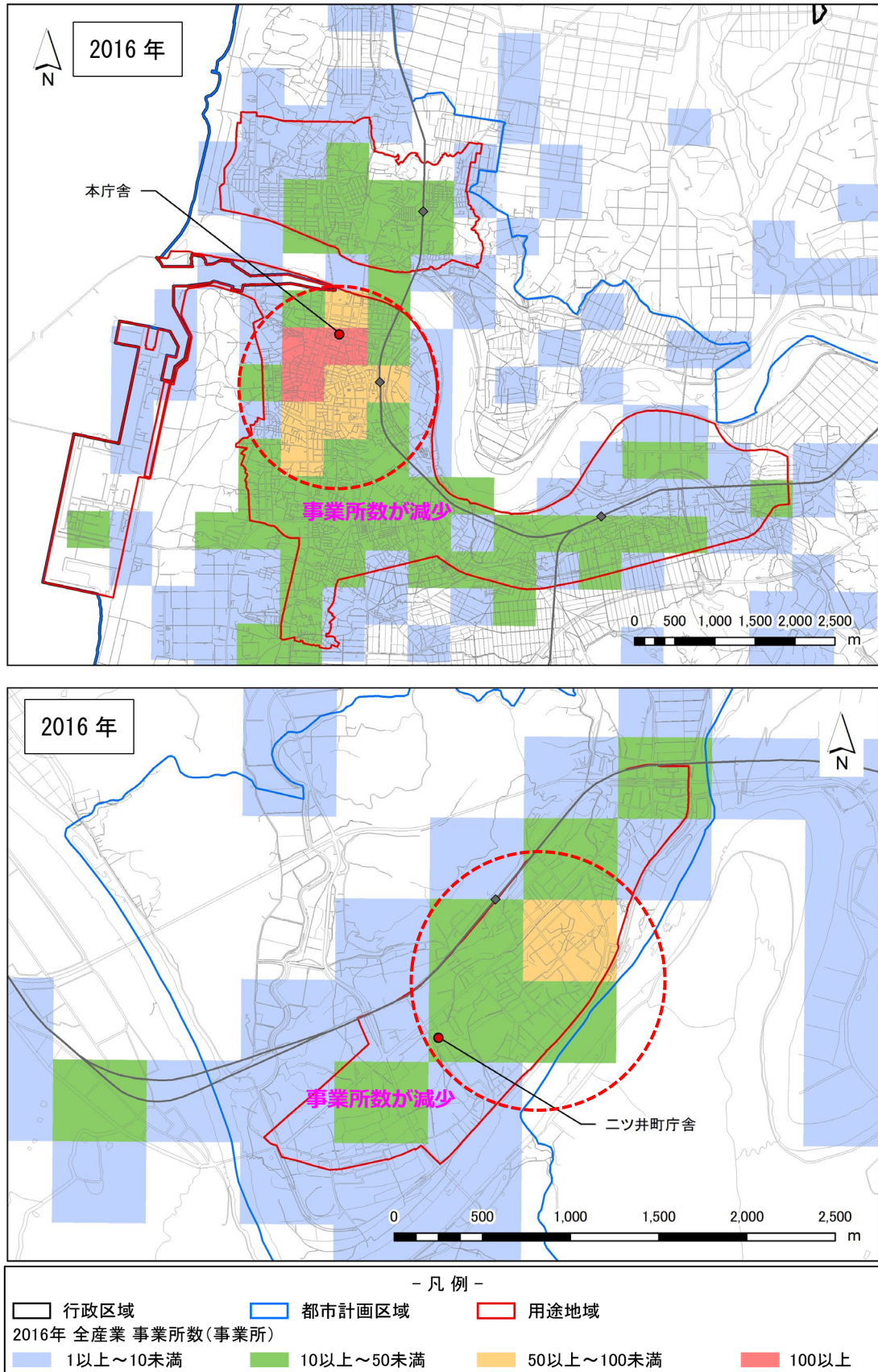
※2006年3月以前のデータは、旧二ツ井町を含む

図 全産業の事業所数の分布状況（2006 年）（上：能代市街地、下：ニツ井市街地）



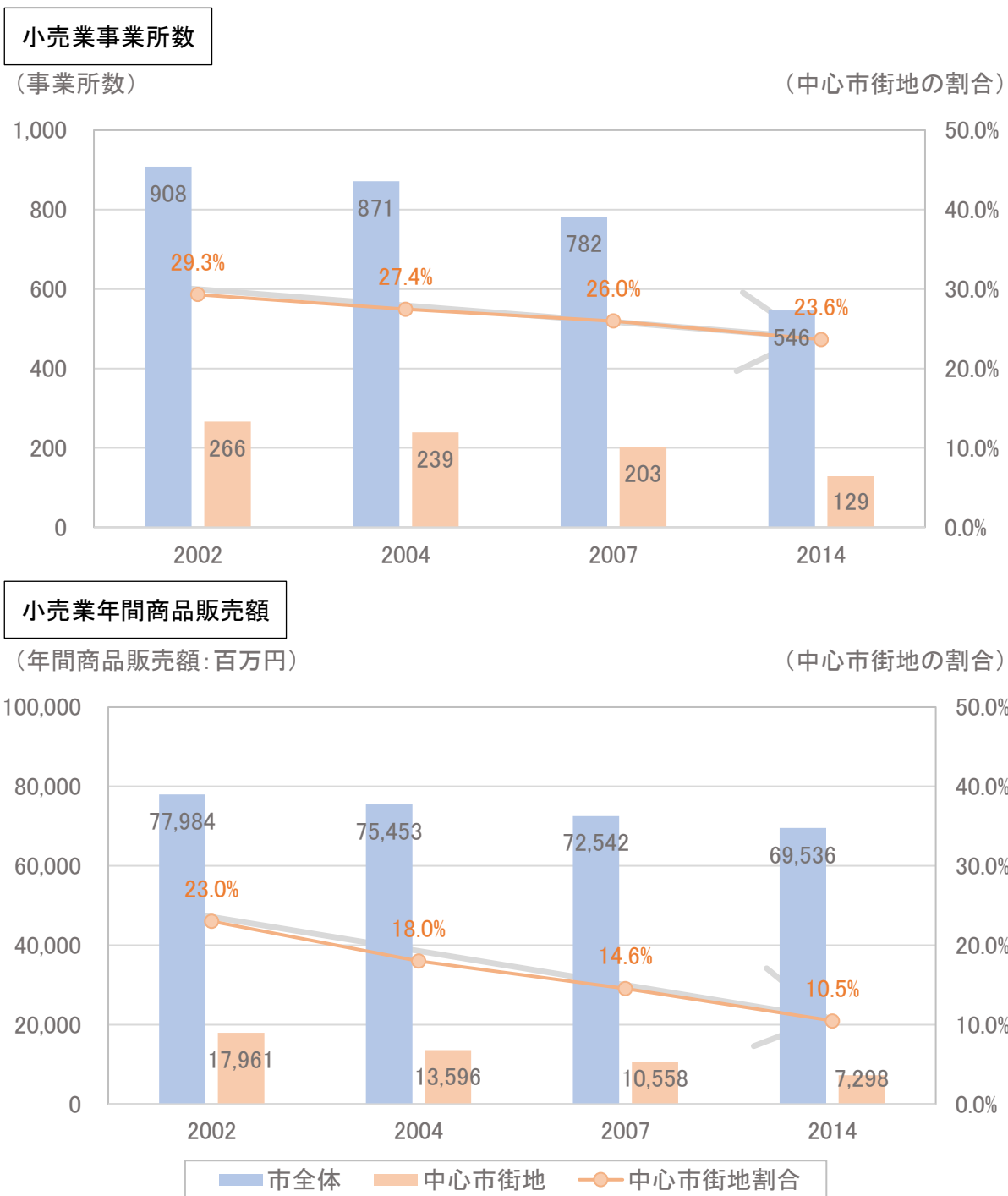
出典：2006 年事業所・企業統計調査 500m メッシュ

図 全産業の事業所数の分布状況（2016年）（上：能代市街地、下：ニツ井市街地）



出典：2016年経済センサス 500m メッシュ

図 小売事業所数および年間商品販売額の推移（市全体と中心市街地）



出典：各年商業統計

1-5. 都市交通

課題⑦	現状・将来見通し
公共交通の利用促進およびサービスの維持・向上	● 2015 年（平成 27 年）時点で、20 歳以上人口 1 人あたり乗用車・自動二輪車保有台数は 0.72 台/人（＝33,478 台/46,382 人）であることから、市民の主な交通手段は自動車であることがわかります。 ● 本市の公共交通は、鉄道、路線バス、コミュニティバス、巡回バス、デマンド型乗合タクシーが運行されており、公共交通の利用圏人口カバー率は 88.4%（用途地域内では 93.0%）を占めています。 ● 公共交通利用者数は、鉄道や路線バスを中心に減少傾向にあります。 ● バス路線は、能代厚生医療センター～能代駅～東能代駅～二ツ井駅の間位置するバス停で運行本数が多くなっており、主要な公共交通の軸になっています。 ● 今後は、人口減少にともなう利用者数の減少により、公共交通の路線廃止や運行本数の減少等によるサービスの低下が懸念されます。また、高齢化の進行や運転免許返納件数の増加により、自動車を運転できなくなった場合の外出機会の減少も懸念されます。そのため、日常生活の移動手段のひとつとして、公共交通サービスの維持に向けた取組が必要です。

表 鉄道駅から 1000m 圏、バス路線等の停留所から 300m 圏内人口カバー率

	市全体		能代中央地域		二ツ井地域		能代北部地域	
	総人口	カバー率	総人口	カバー率	総人口	カバー率	総人口	カバー率
行政区域	54,142		23,260		8,765		8,908	
うち、利用圏域内	47,877	88.4%	20,928	90.0%	8,325	95.0%	7,727	86.7%
都市計画区域	47,182		23,260		4,966		7,915	
うち、利用圏域内	41,975	89.0%	20,928	90.0%	4,787	96.4%	6,960	87.9%
用途地域	37,989		22,562		3,292		6,584	
うち、利用圏域内	35,339	93.0%	20,683	91.7%	3,228	98.1%	6,008	91.3%
用途地域外（白地）	9,193		698		1,674		1,330	
うち、利用圏域内	6,636	72.2%	245	35.2%	1,559	93.1%	952	71.5%
			能代北東部地域		能代東部地域		能代南部地域	
			総人口	カバー率	総人口	カバー率	総人口	カバー率
行政区域	1,587		4,900		6,724			
うち、利用圏域内	1,289	81.2%	4,414	90.1%	5,195	77.3%		
都市計画区域	0		4,501		6,540			
うち、利用圏域内	0	0.0%	4,201	93.3%	5,098	78.0%		
用途地域	0		2,953		2,599			
うち、利用圏域内	0	0.0%	2,855	96.7%	2,565	98.7%		
用途地域外（白地）	0		1,548		3,942			
うち、利用圏域内	0	0.0%	1,346	86.9%	2,534	64.3%		

※2015 年国勢調査 100m メッシュを基に集計

図 平日往路・復路平均運行本数別バス路線の利用圏域

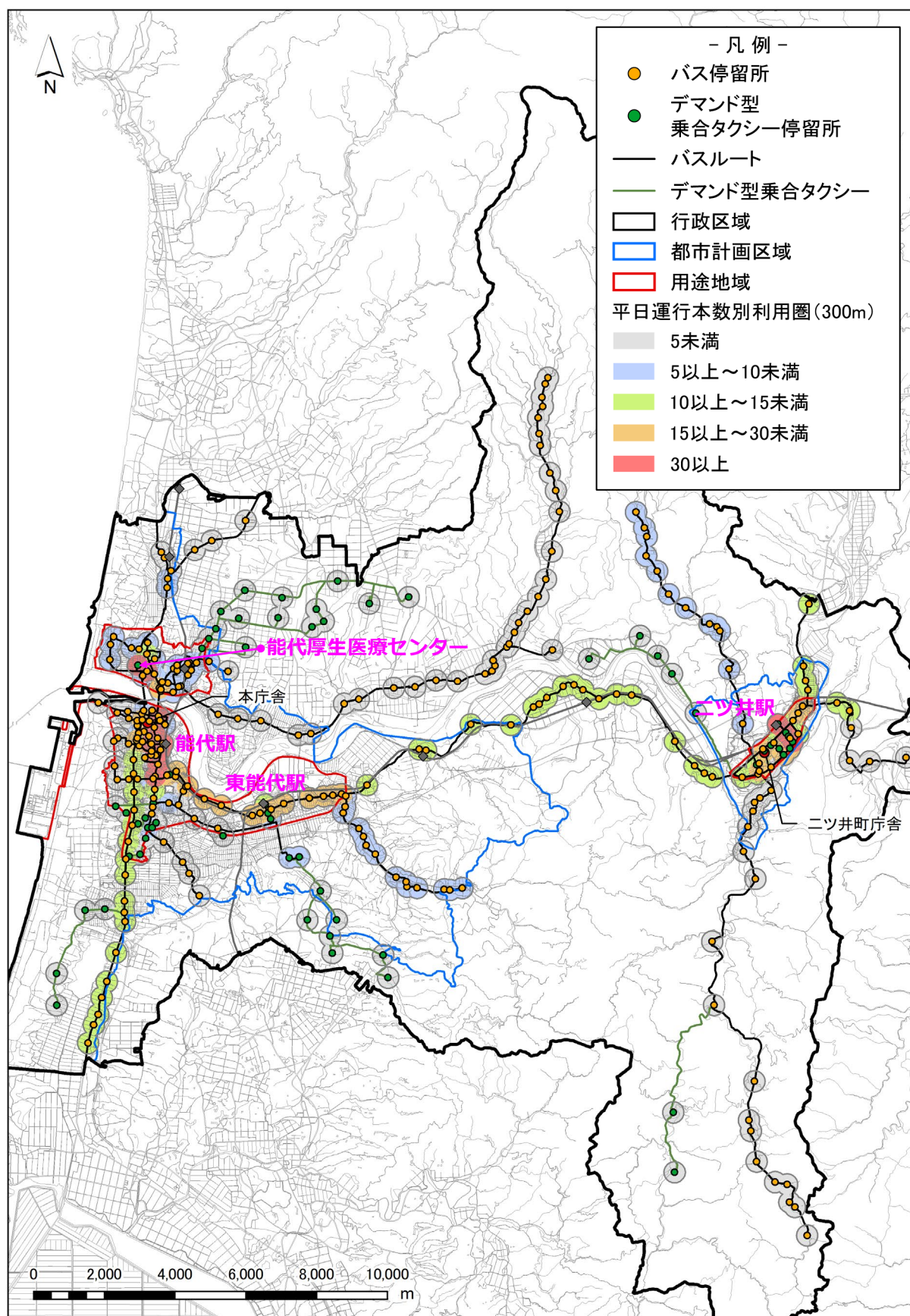
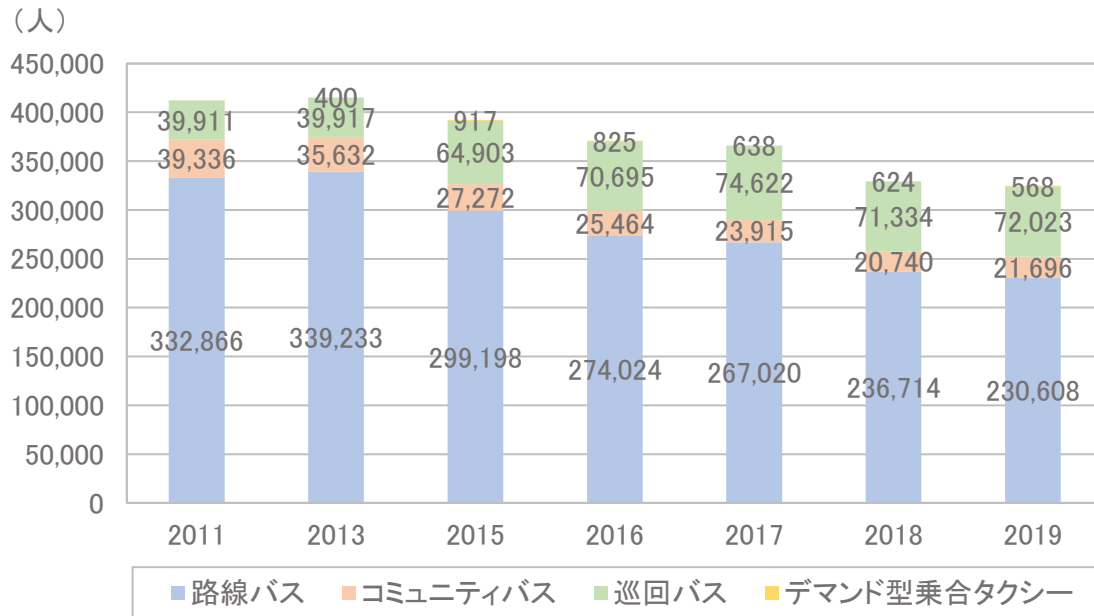
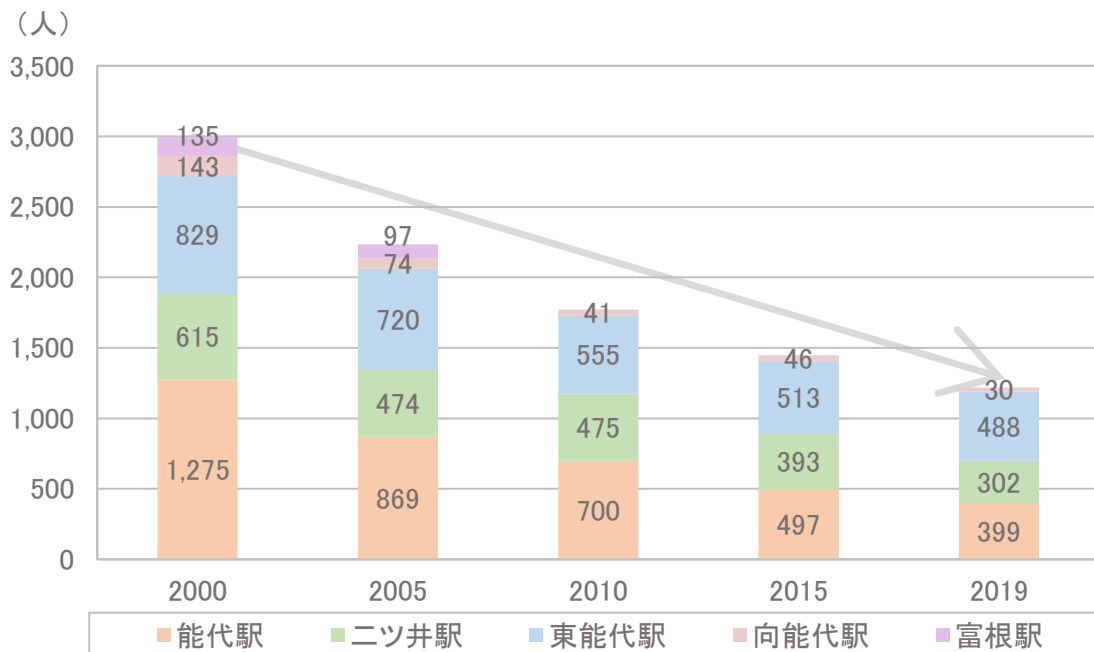


図 バス等の輸送人員の推移



出典：能代市資料

図 JR 駅の日平均利用者数の推移



出典：東日本旅客鉄道株式会社 HP

1-6. 都市施設

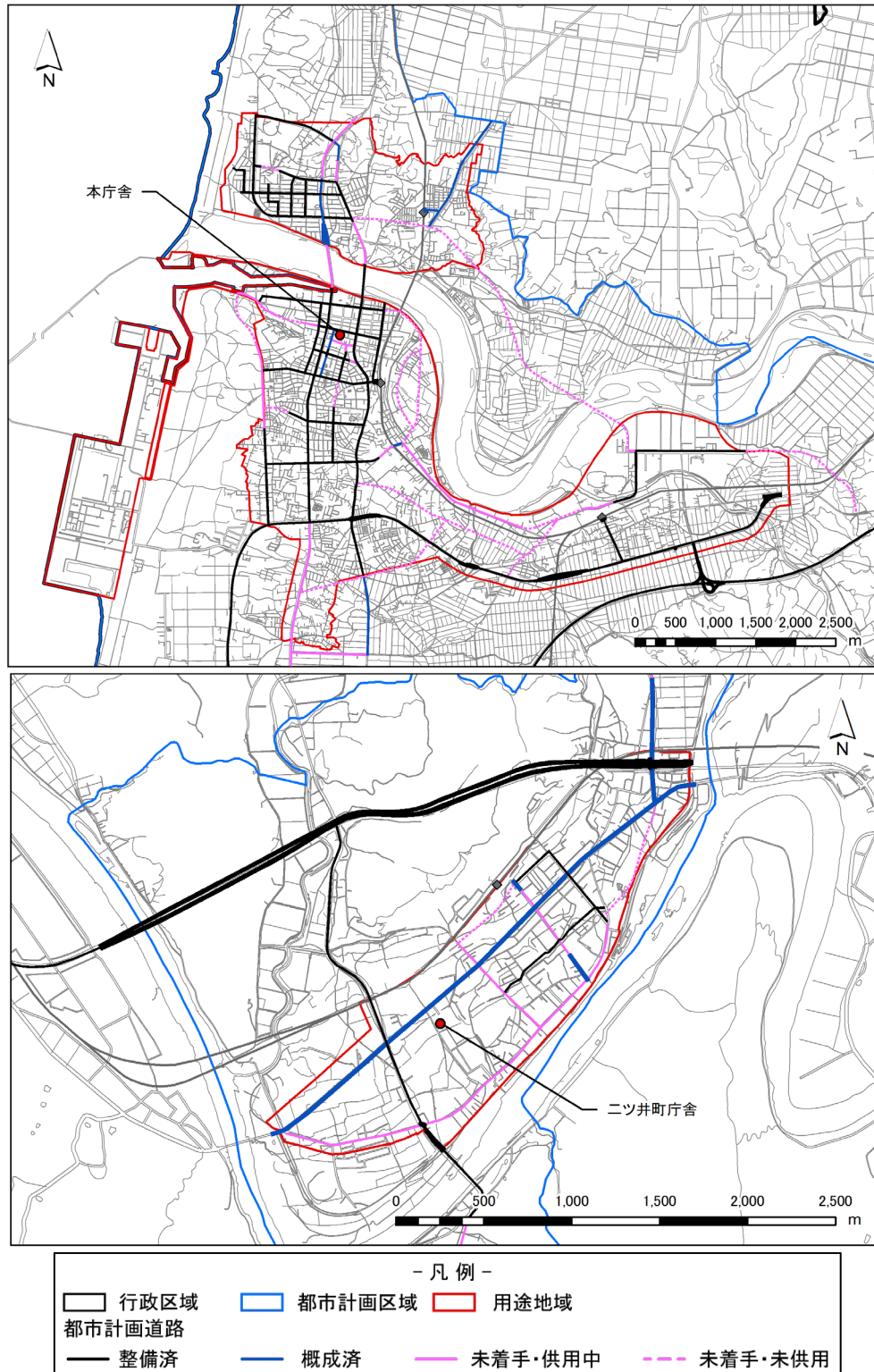
課題⑧	現状・将来見通し
都市施設の整備推進および見直し	● 都市計画道路は、46 路線を計画決定しています。改良済延長の割合は 60.6%で、秋田県全体の水準（65.5%）を下回っており、計画決定後 20 年以上にわたり未着手となっている区間も多数存在します。 ● 未着手となっている都市計画道路の多くが、都市の拡大を前提に決定されたものであり、今後は、社会情勢の変化を踏まえ、長期未着手区間を対象とした都市計画の見直しや廃止、存続区間の計画的な整備を進めていく必要があります。 ● 都市計画公園は、26 箇所を計画決定しています。整備率は、箇所ベースで 100%（米代川河川緑地を除く公園の面積ベースで 97.6%）となっています。 ● 公園は、市民のレクリエーションや憩い、良好な景観の形成など多様な機能を有していることから、今後は、未開設範囲の計画的な整備のほか、各公園が保有する機能の維持・向上を進めていく必要があります。 ● 下水道（公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽）の処理人口普及率は、2019 年度末（令和元年度末）で 74.4%であり、秋田県全体の水準（88.0%）を下回っています。 ● 下水道は、生活環境の改善や防災・減災機能等の向上等の役割を担う重要なインフラであるものの、受益者からの負担金や使用料によって整備や維持管理が成り立っていることから、今後は、人口減少等の社会情勢の変化にも対応した見直しを行いながら、計画的な整備を進めていく必要があります。 ● その他の都市施設として、市場や駐車場、汚物処理場、火葬場を都市計画決定し、整備が完了しています。 ● 整備が完了している道路や公園、市場等の都市施設は、その機能を維持していくため、計画的な維持管理や修繕・更新を行っていく必要があります。

表 都市計画道路の整備状況

	路線数	計画決定 延長(m)	改良済	
			延長(m)	割合(%)
自動車専用道路	2	16,350	16,350	100.0
幹線街路	40	87,600	45,673	52.1
区画街路	3	1,620	1,620	100.0
特殊街路	1	740	740	100.0
合計	46	106,310	64,383	60.6

出典：能代市資料（2020 年 3 月 31 日時点）

図 都市計画道路の整備状況（上：能代市街地、下：二ツ井市街地）



出典：能代市資料（2020年3月31日時点）

表 汚水処理人口普及率

	公共下水道	農業集落排水	合併処理浄化槽	合計
処理人口（人）	26,148	208	12,273	38,629
普及率（％）※	50.4%	0.4%	23.7%	74.4%

出典：2020 あきたの下水道

※住民基本台帳人口（R2.3.31）に対する処理人口の割合

1-7. 防災

課題⑨	現状・将来見通し
安全・安心な生活環境の確保	● 数百年～千年に1回の発生頻度による最大クラスの津波が発生した場合、能代地域の用途地域の39.1%で浸水することが予想されます。特に、建物の流出危険性が高まる浸水深2.0m以上の範囲には、用途地域内人口の16.6%（約5,770人：2015年（平成27年））が居住しています。 ● 千年に1回の発生頻度による最大クラスの降雨により洪水が発生した場合、能代地域の用途地域で31.4%、ニツ井地域の用途地域で93.1%の範囲が浸水すると予想されます。特に、2階建て住宅の2階床面まで浸水する浸水深3.0m以上の範囲には、能代地域の用途地域内人口で3.7%（約1,280人：2015年）、ニツ井地域の用途地域内人口で31.2%（約1,030人）が居住しています。 ● 土砂災害の危険箇所は、用途地域外の山間部に広く分布しており、少数ではあるものの、当該範囲にも住宅が分布しています。 ● 本市は、海・川・山を有しており、豊かな自然に恵まれている一方で、自然災害が発生した場合に被害が発生するリスクが高いといえます。そのため、各種の自然災害に対し、防災性を高めるために必要なハード整備のほか、避難行動を円滑にするための組織づくりや情報発信、意識啓発など、ソフト対策も合わせた総合的な取組を進めていくことが必要です。

表 浸水面積割合

		市全域							
				うち、都市計画区域（能代）		うち、都市計画区域（ニツ井）			
		(ha)		(ha)	うち、用途地域 (ha)	(ha)		うち、用途地域 (ha)	
津波	～0.5m	126.4	(0.3%)	105.9	(1.0%)	53.7	(2.6%)	0.0	(0.0%)
	0.5～2.0m	549.7	(1.3%)	531.6	(5.2%)	152.2	(7.4%)	0.0	(0.0%)
	2.0m～	1,595.5	(3.7%)	1,595.5	(15.5%)	597.6	(29.1%)	0.0	(0.0%)
	計	2,271.6	(5.3%)	2,233.0	(21.7%)	803.5	(39.1%)	0.0	(0.0%)
洪水	～0.5m	169.7	(0.4%)	147.3	(1.4%)	88.2	(4.3%)	21.4	(2.3%)
	0.5～3.0m	943.0	(2.2%)	635.7	(6.2%)	387.3	(18.9%)	224.8	(23.7%)
	3.0m～	619.0	(1.5%)	428.2	(4.2%)	169.5	(8.3%)	137.4	(14.5%)
	計	1,731.7	(4.1%)	1,211.2	(11.7%)	645.0	(31.4%)	383.6	(40.4%)
								187.4	(93.1%)

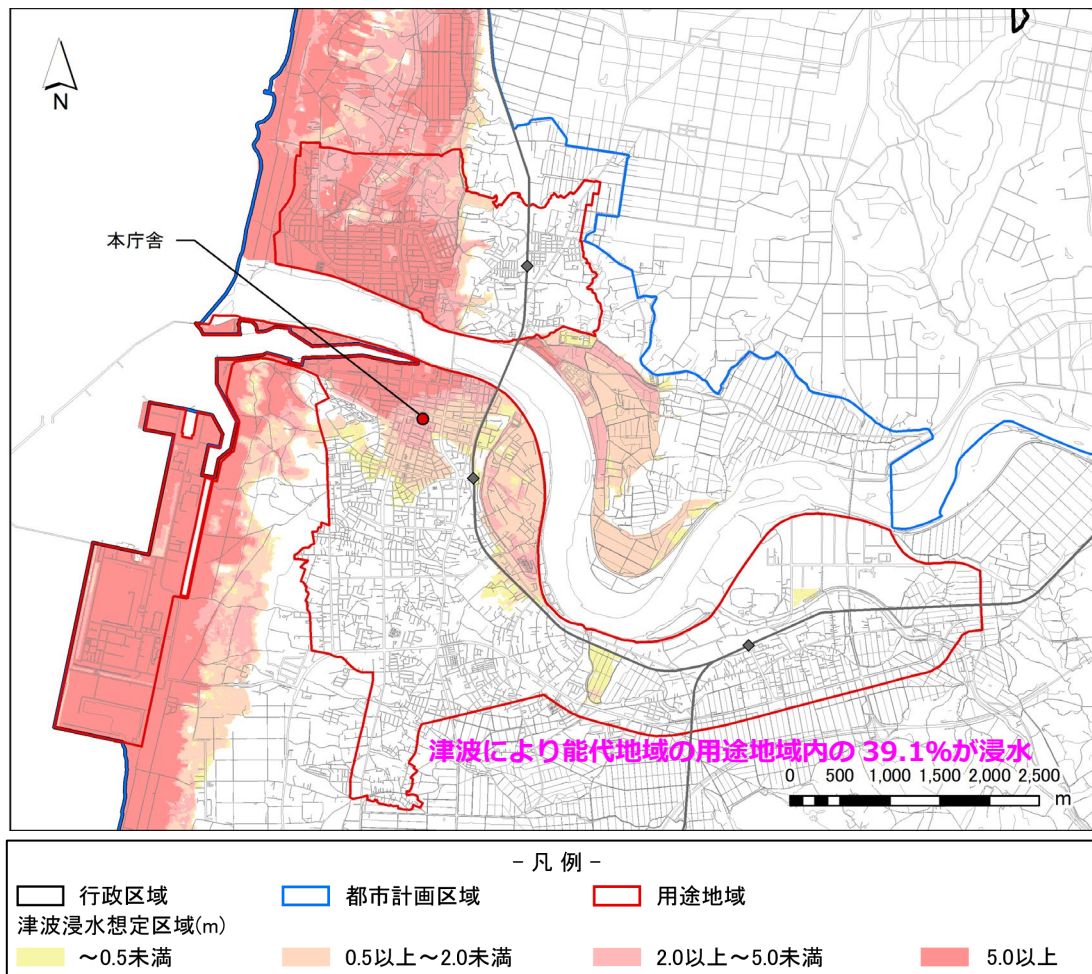
出典：津波浸水想定区域（2016年3月、秋田県）、米代川水系米代川洪水浸水想定区域図（2017年6月、国土交通省）、阿仁川洪水浸水想定区域図（2020年1月、秋田県）、藤琴川洪水浸水想定区域図（2019年9月、秋田県）

表 浸水区域内人口割合

		市全域							
		うち、都市計画区域(能代)				うち、都市計画区域(ニツ井)			
		(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)
津波	～0.5m	1,517 (2.8%)	1,515 (3.6%)	1,452 (4.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	0.5～2.0m	3,524 (6.4%)	3,524 (8.3%)	3,249 (9.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	2.0m～	6,087 (11.1%)	6,087 (14.3%)	5,772 (16.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	計	11,128 (20.3%)	11,126 (26.2%)	10,474 (30.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
洪水	～0.5m	2,971 (5.4%)	2,230 (5.2%)	2,002 (5.7%)	62 (1.2%)	15 (0.5%)	15 (0.5%)	15 (0.5%)	15 (0.5%)
	0.5～3.0m	11,425 (20.9%)	6,851 (16.1%)	5,993 (17.2%)	2,809 (56.4%)	2,211 (66.9%)	2,211 (66.9%)	2,211 (66.9%)	2,211 (66.9%)
	3.0m～	3,061 (5.6%)	1,394 (3.3%)	1,283 (3.7%)	1,363 (27.3%)	1,031 (31.2%)	1,031 (31.2%)	1,031 (31.2%)	1,031 (31.2%)
	計	17,457 (31.9%)	10,475 (24.6%)	9,278 (26.6%)	4,234 (84.9%)	3,257 (98.5%)	3,257 (98.5%)	3,257 (98.5%)	3,257 (98.5%)

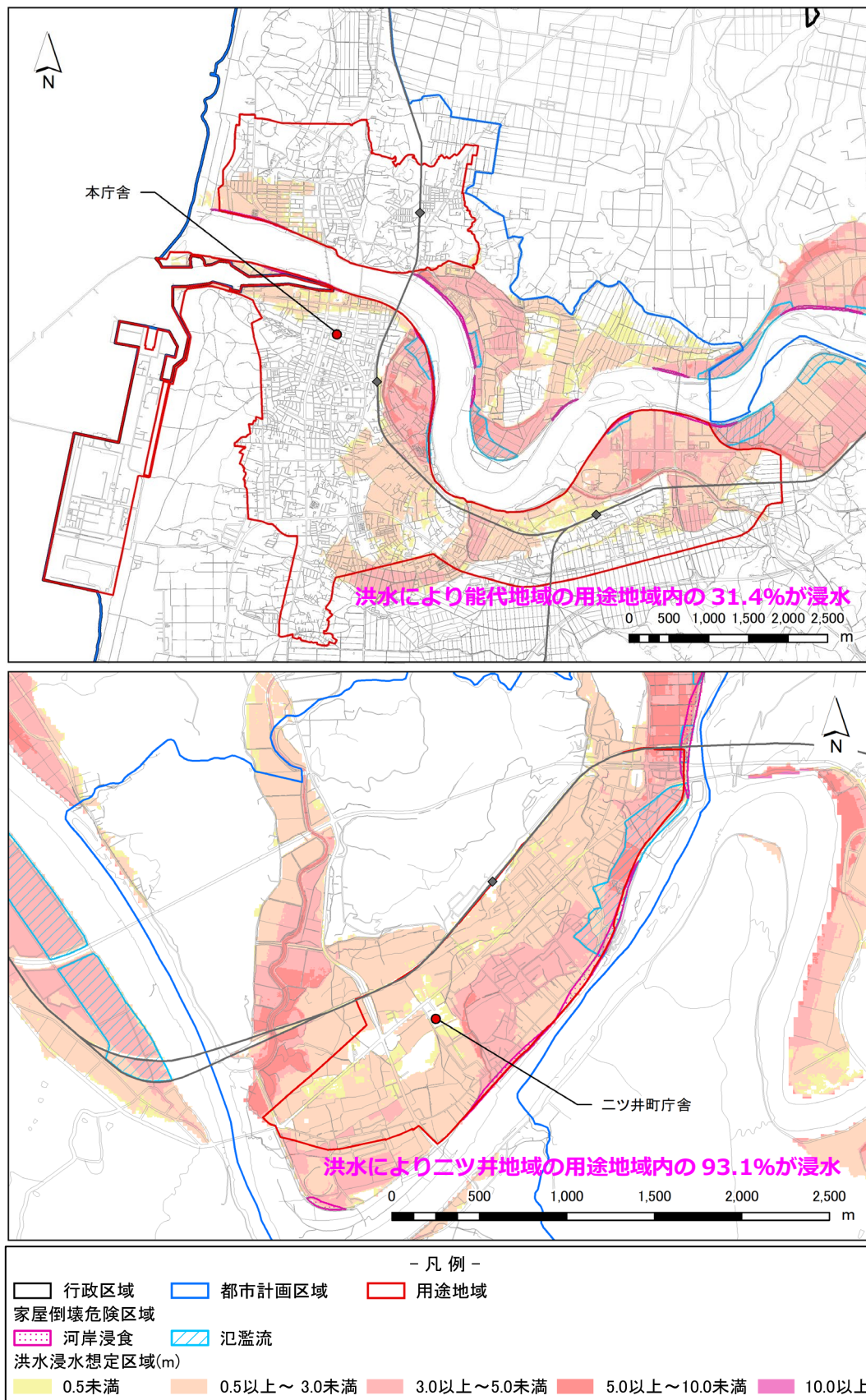
出典：津波浸水想定区域（2016 年 3 月、秋田県）、米代川水系米代川洪水浸水想定区域図（2017 年 6 月、国土交通省）、阿仁川洪水浸水想定区域図（2020 年 1 月、秋田県）、藤琴川洪水浸水想定区域図（2019 年 9 月、秋田県）、2015 年国勢調査 100mメッシュ

図 津波浸水想定区域図（能代市街地）



出典：津波浸水想定図（2016 年 3 月、秋田県）

図 洪水浸水想定区域図（上：能代市街地、下：二ツ井市街地）

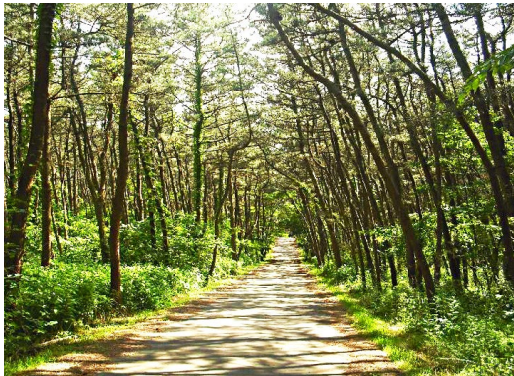


出典：米代川水系米代川洪水浸水想定区域図（2017年6月、国土交通省）、阿仁川洪水浸水想定区域図（2020年1月、秋田県）、藤琴川洪水浸水想定区域図（2019年9月、秋田県）

1-8. 地域資源

課題⑩	現状・将来見通し
地域資源の活用	● 本市は、世界自然遺産白神山地と、それに連なる山々をはじめ、日本海、米代川、風の松原、きみまち阪、七座山、日本一高い天然秋田杉等の豊かな自然を有しています。 ● また、旧料亭金勇等の歴史的建造物や景勝地に加え、JAXA 能代ロケット実験場や風力発電所等の産業資源、歴史の里檜山、能代役七夕等の伝統行事やイベント、バスケットボールの名門である能代工業高等学校（2021 年（令和 3 年）4 月より能代科学技術高等学校）、きみまち阪での明治天皇と皇后の手紙にまつわるエピソードなど、他に誇ることのできる地域資源が数多くあります。 ● 今後とも、既に活用されている地域資源の更なる活用や、地域資源と捉えていながら十分な活用に至っていない地域資源の磨き上げ等により、交流人口を拡大していく必要があります。

図 市内の主要な地域資源



【風の松原】



【七座山】



【旧料亭金勇】

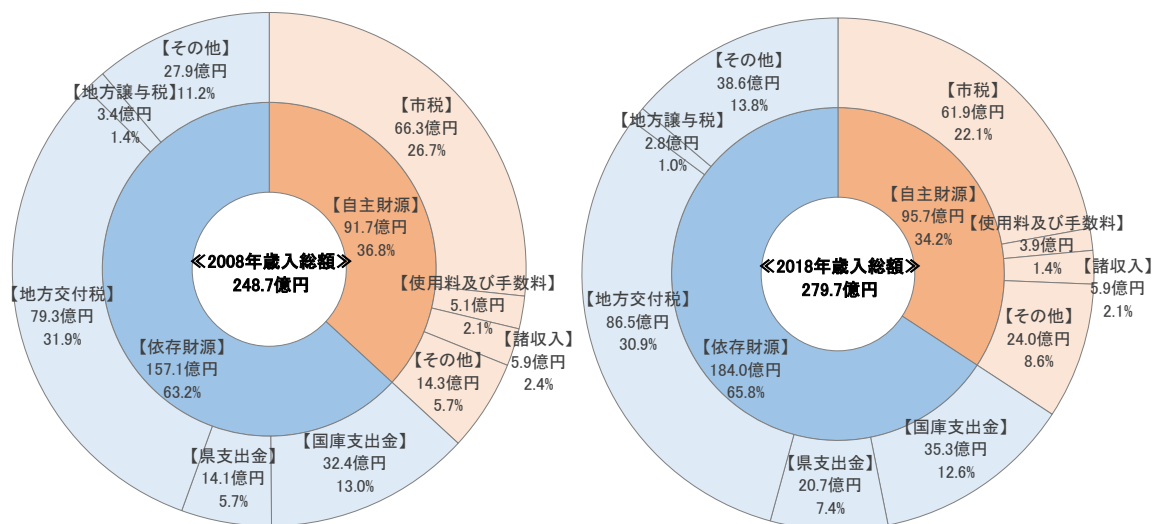


【役七夕（ねぶながし）】

1-9. 財政

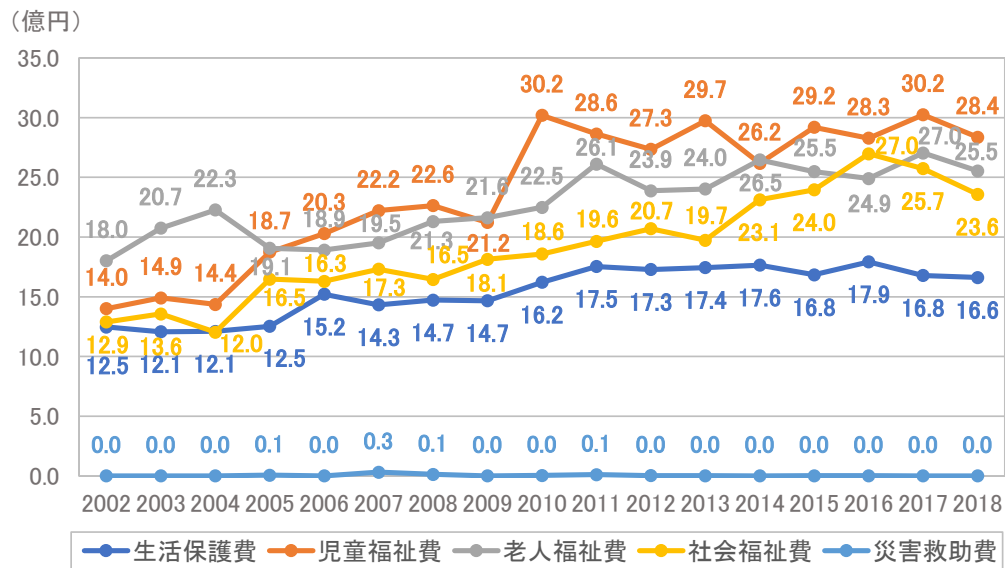
課題⑪	現状・将来見通し
持続可能な財政運営	● 本市の歳入は、2008～2018 年（平成 20～30 年）で、自主財源比率が 2.6 ポイント減少しています。 ● 歳出は、民生費は増加傾向にあり、特に児童福祉費、老人福祉費、社会福祉費が増加しています。 ● 市が保有する公共施設および道路や橋りょう等のインフラは、現在の保有量（サービス）を維持すると仮定した場合、約 84 億円/年の更新費用が必要となる見込みです。（2005～2014 年（平成 17～26 年）度の 10 過年度平均：53 億円/年） ● 今後は、人口減少にともなう自主財源の減少、後期高齢者の増加等にもなう民生費の増加、公共施設等の老朽化にともなう維持・更新費の増加など、厳しい財政状況が予想されています。そのため、限られた財源の中でも必要な公共サービスを維持できるよう、公共施設やインフラの施設のあり方を検討していくことが必要です。 ● また、利用されていない公共の土地・建物の利活用に関しても、将来の財政負担を考慮した慎重な対応を進めていくことが必要です。

図 財源別歳入の変化（2008-2018 年）



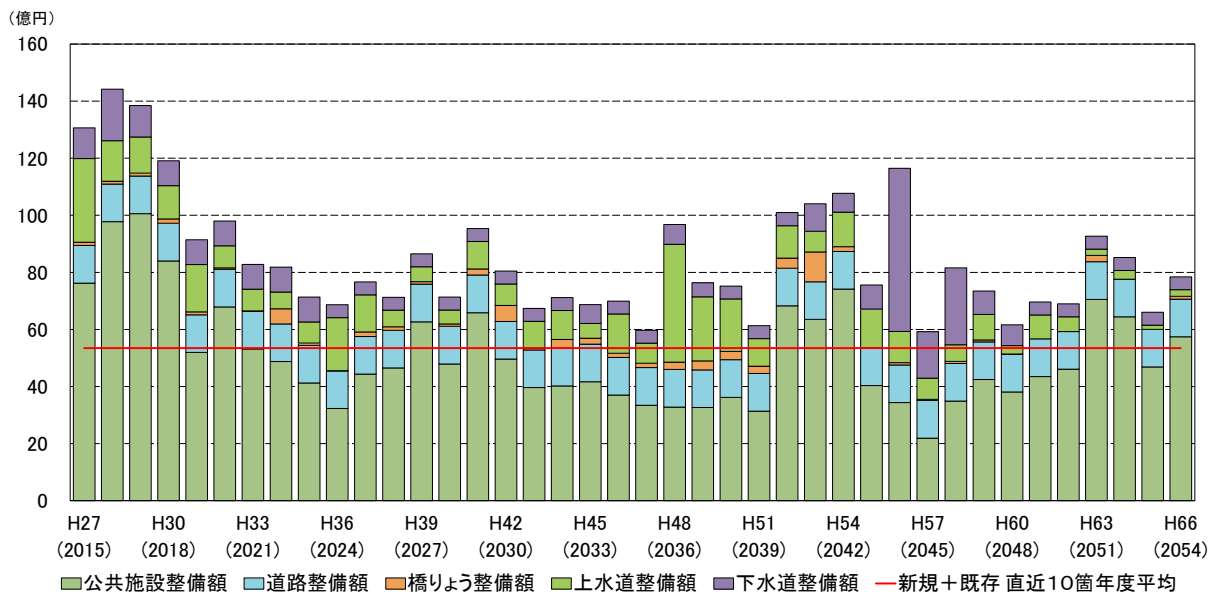
出典：各年市町村別決算状況調（総務省）

図 民生費（普通会計）の変化



出典：各年市町村別決算状況調（総務省）

図 公共施設およびインフラ資産の更新費用試算



出典：能代市公共施設等総合管理計画（2017年3月）

2. まちづくりに関する「市民アンケート」調査結果

2-1. アンケート調査の目的

- 「能代市都市計画マスタープラン」の見直しおよび「能代市立地適正化計画」策定に向け、市の現状や将来のまちづくりの方向性などについて、市民から広く意見を聴き、今後の取組の参考とします。
- アンケート調査は、18 歳以上の男女を対象とした「一般市民調査」、市内高等学校に通学している高校生を対象とした「高校生調査」の2種類を実施しました。

2-2. 調査の概要

(1) 調査対象者・回収率

- ・ 一般市民調査：2020 年（令和2年）4月1日時点で18歳以上の市民2,000人
（市内6地域の人数割合を考慮し無作為抽出）
：回収率54.4%（＝1,087人/2,000人）
- ・ 高校生調査：市内高等学校へ通学する高校生のうち、現2年生の588人
：回収率97.4%（＝573人/588人）

(2) 調査手法

- ・ 一般市民調査：郵送配布・郵送回収。回答は、Webでの回答も可能とした
- ・ 高校生調査：学校にて配布・回収

(3) 調査期間

- ・ 一般市民調査：2020年9月28日（月）～10月9日（金）
- ・ 高校生調査：2020年9月28日（月）～10月5日（月）

(4) 調査内容

- ・ 設問内容および設問の主旨は下表のとおり

表 調査内容

	設問内容	役割	取得した情報
1	回答者の属性	● 回答者の個人属性を把握する	● 性別 ● 年齢 ● 居住地域 ● 居住年数 ● 職業
2	日常生活についての評価等	● 道路交通や住環境等について、日常生活で感じる満足度等や、必要な機能等を把握する	● 道路交通等の各分野の満足度・重要度 ● 地域に不足する施設の有無とその内容 ● 人口減少による影響のうち避けるべき事項
3	土地の使い方、都市整備のあり方、都市防災について	● 各分野について、今後、力を入れるべき取組内容等を把握する	● 住宅地のあり方や商業集積地として望ましい位置等 ● 道路や公園等の取組の方向性 ● 都市防災の取組の方向性
4	今後のまちづくりに対する意向	● 今後のまちづくりの方向性等を把握する	● 今後のまちづくりの方向性 ● 住み替え意向 ● まちづくり等への参加意向
5	自由意見	● まちづくりに関する意見等を把握する	—

2-3. 調査結果

- アンケート調査結果の概要は、以下のとおりです。

表 「市民アンケート」調査結果の概要（1/2）

視点	市民意向
日常生活についての評価	【満足度が高い事項】 ● 自然の豊かさ ● 幹線道路の便利さ ● 医療福祉施設の利用しやすさ ● 街路樹等緑の充実度 ● 土砂災害の安全性 【満足度が低い事項】 ● 公共交通機関の便利さ ● 観光施設の充実度 ● 娯楽・レジャー施設の充実度
居住地域に不足する施設の有無およびその内容	● 不足する施設がある（一般市民：47.1%、高校生：38.7%） 【具体的な不足する施設】 ● スーパーマーケット ● コンビニエンスストア ● 飲食店・レストラン ● 公園、広場
人口減少・少子高齢化により日常生活に影響が生じると困ること	● スーパー等の撤退 ● 社会保障費の増加 ● 税負担の増加 ● 公共交通の減便・廃止
今後の住宅地のあり方	● 一般市民・高校生ともに「空き地・空き家などへの対策」がもっとも多い
商業地の集積地として望ましい場所	● 一般市民では「市街地における幹線道路沿い」、高校生では「駅周辺の中心市街地」がもっとも多い
今後の農地のあり方	● 一般市民では「市街地隣接地の幹線道路では他用途への転用もやむを得ない」、高校生では「今ある農地を守る」がもっとも多い
道路整備や交通について力を入れるべき整備や取組	● バス等の交通手段を確保する ● まちなかの駐車場を増やし自動車で行きやすくする ● 家のまわりの生活道路を整備する ● 歩道の整備・拡張や段差を解消するためのバリアフリー化 ● 自転車専用レーンや自転車の専用道路を整備する

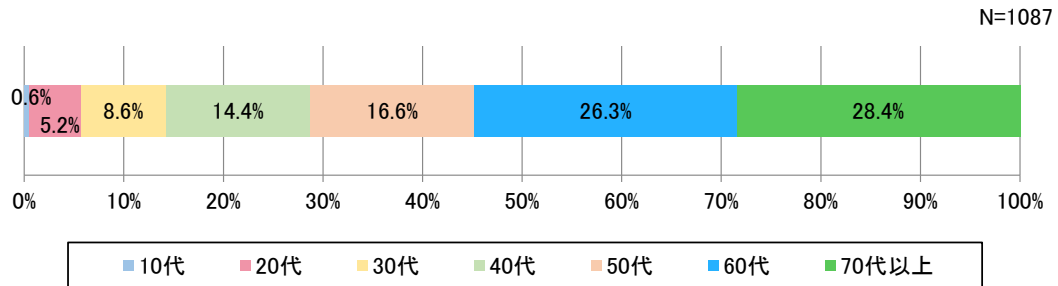
表 「市民アンケート」調査結果の概要（2/2）

視点	市民意向
公園や緑についての整備や取組	● 災害時の避難場所に活用できる公園や広場づくり ● 休日に家族と過ごせる大きめの公園や緑地づくり ● まちなかの賑わいを創出するためのイベント広場の整備
自然環境や景観についての整備や取組	● 歴史的な景観や建造物の保全 ● 周辺の山林や水辺などの豊かな自然の保全 ● 住宅地周辺などの田園風景の保全 ● 電線類の地中化
都市防災についての整備や取組	● 大雨による河川の氾濫や浸水被害に対する対策 ● 津波などの水害対策 ● 安全な避難場所の整備 ● 食糧の備蓄や非常用資材の備蓄
20年後の能代市の望ましいイメージ	● お年寄りや障がいのある人にやさしいまち ● 医療福祉施設が近くにあるまち ● 防災・防犯に優れた安全・安心なまち ● 市街地中心部での買い物がしやすいまち
住み替えの意向	● 一般市民では「現在地に住み続けたい」、高校生では「可能であれば市外へ移りたい」がもっとも多い 【住み替えたい場所（高校生）】 ● 買い物・飲食が便利な地域 ● 娯楽・交流施設が充実した地域 ● 公共交通が利用しやすい地域
まちづくり活動に対する意向	● 「なんらかの形で参加・協力したい」が一般市民で約 45%、高校生で約 60%

(1) 回答者属性

- 一般市民（以下、「市民」という）の回答者は、70代以上が28.4%と最も多い状況です。また、回答者の半数以上が60代以上です。
- 高校生は、全員が高校2年生（16または17歳）です。

図 一般市民の年齢



(2) 日常生活についての評価

- 市民・高校生ともに「自然の豊かさ」の満足度がもっとも高く、その他は、市民で「土砂災害の安全性」や「幹線道路の便利さ」、高校生で「街路樹等緑の充実度」や「医療福祉施設の利用しやすさ」が挙げられました。
- 一方、市民・高校生ともに「公共交通機関の便利さ」や「娯楽・レジャー施設の充実度」、「観光施設の充実度」の満足度が低くなっています。

図 各種の取組に関する満足度

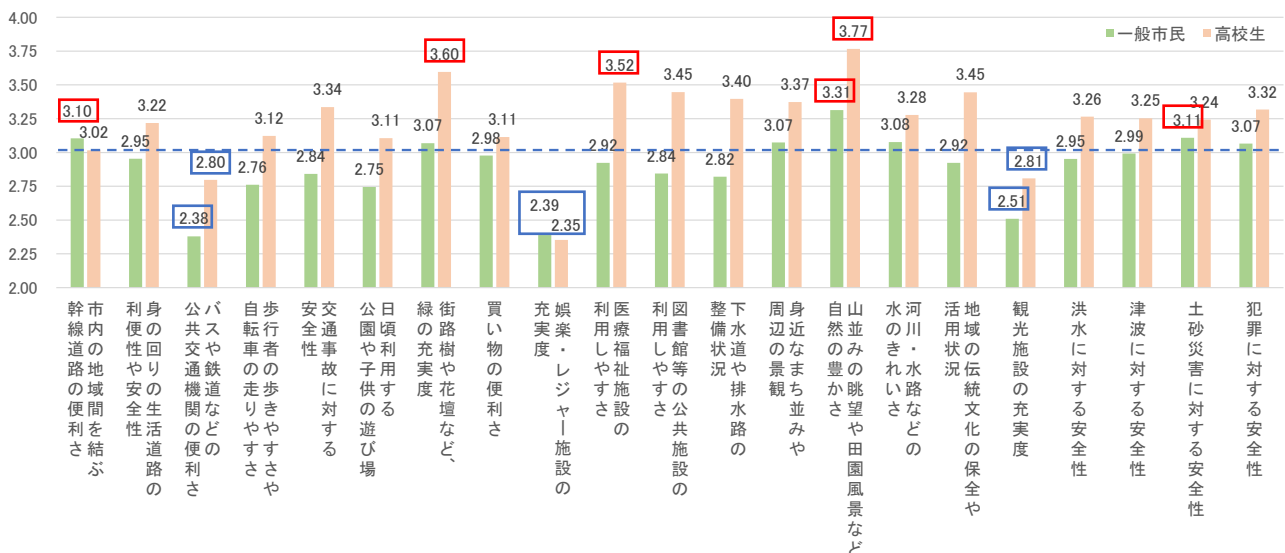
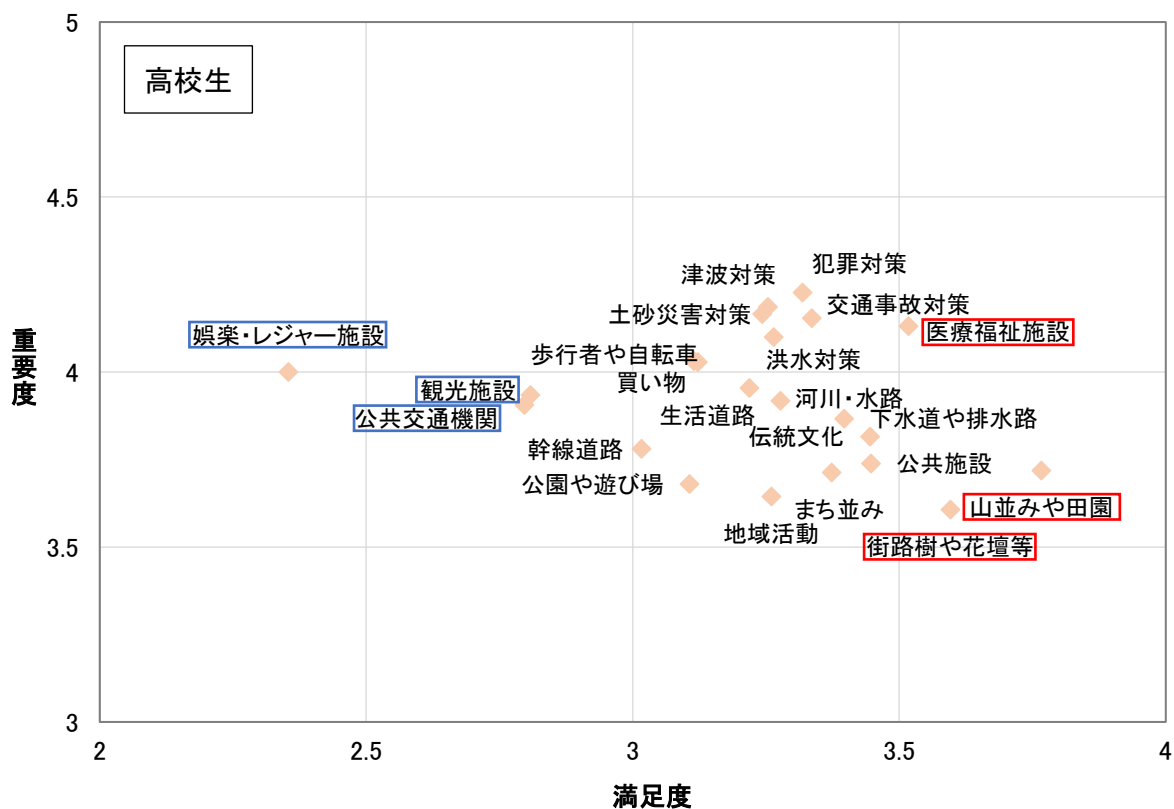
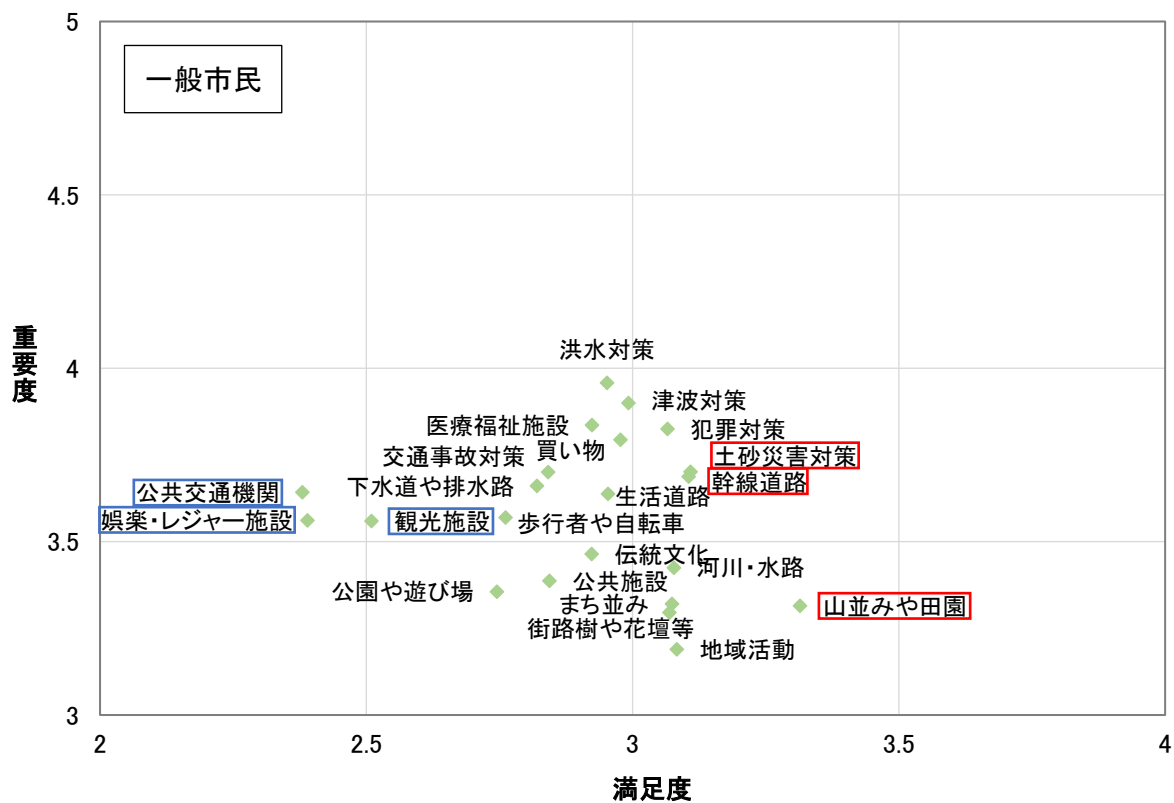


図 各種の取組に関する満足度・重要度（上：一般市民、下：高校生）



(3) 居住地域に不足する施設の有無およびその内容

- 不足する施設が「ある」という意見は、市民で 47.1%、高校生で 38.7%となっています。
- 具体的な不足する施設として、市民・高校生ともに「スーパーマーケット」や「飲食店・レストラン」が多く挙げられました。
- その他の上位意見は、市民で「公園、広場」、高校生で「コンビニエンスストア」が挙げられました。

図 不足する施設の有無

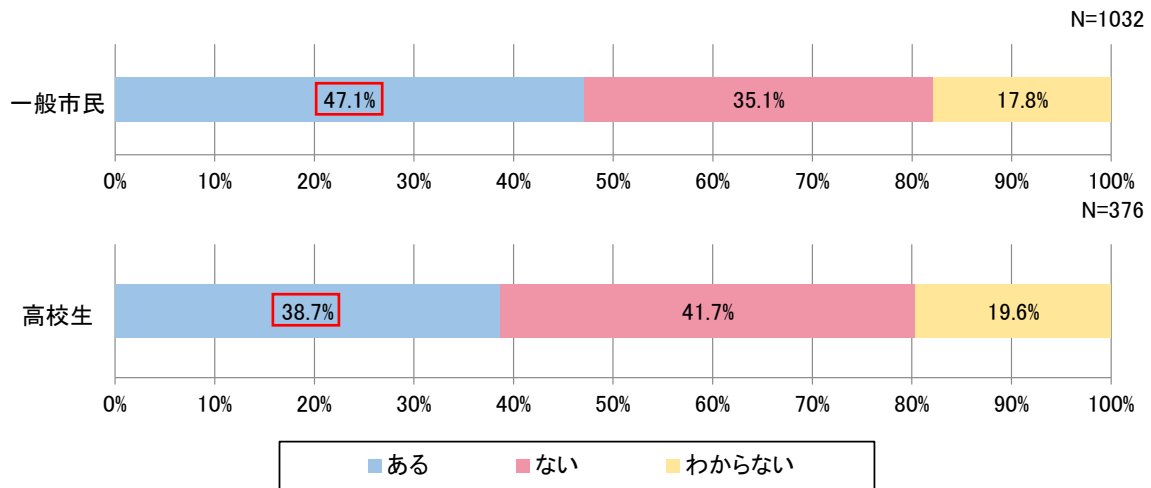
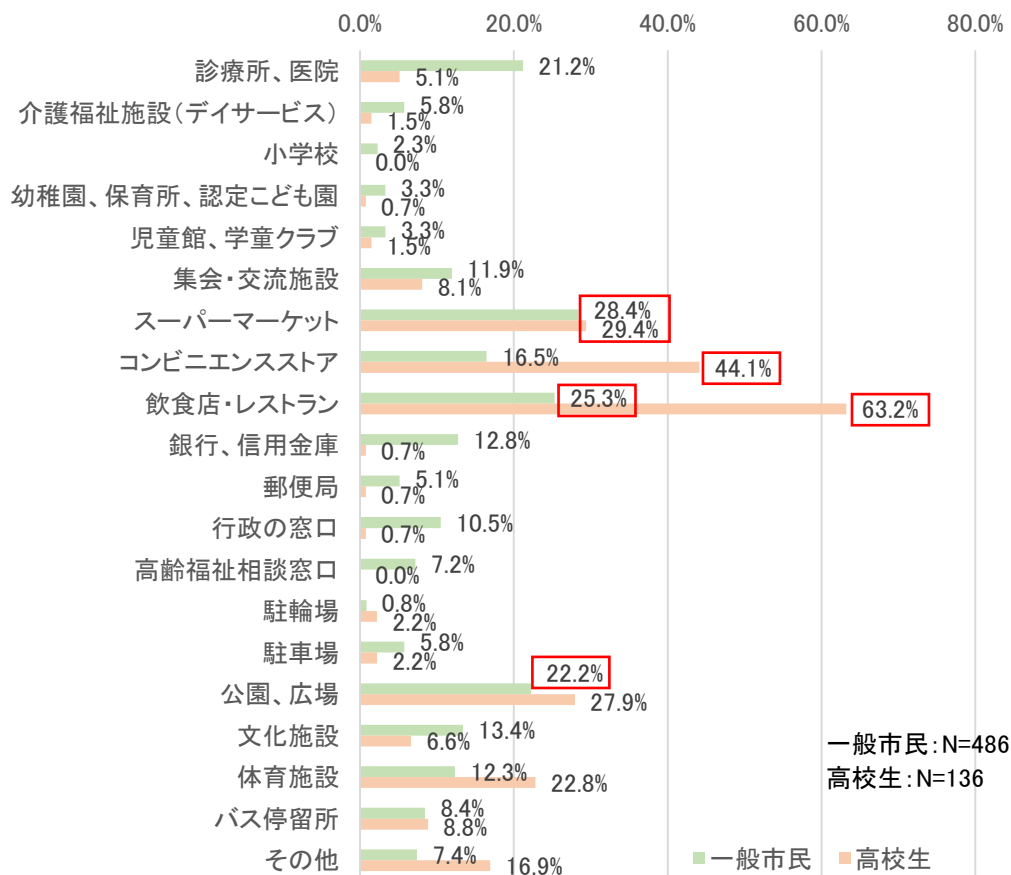


図 不足する具体的な施設

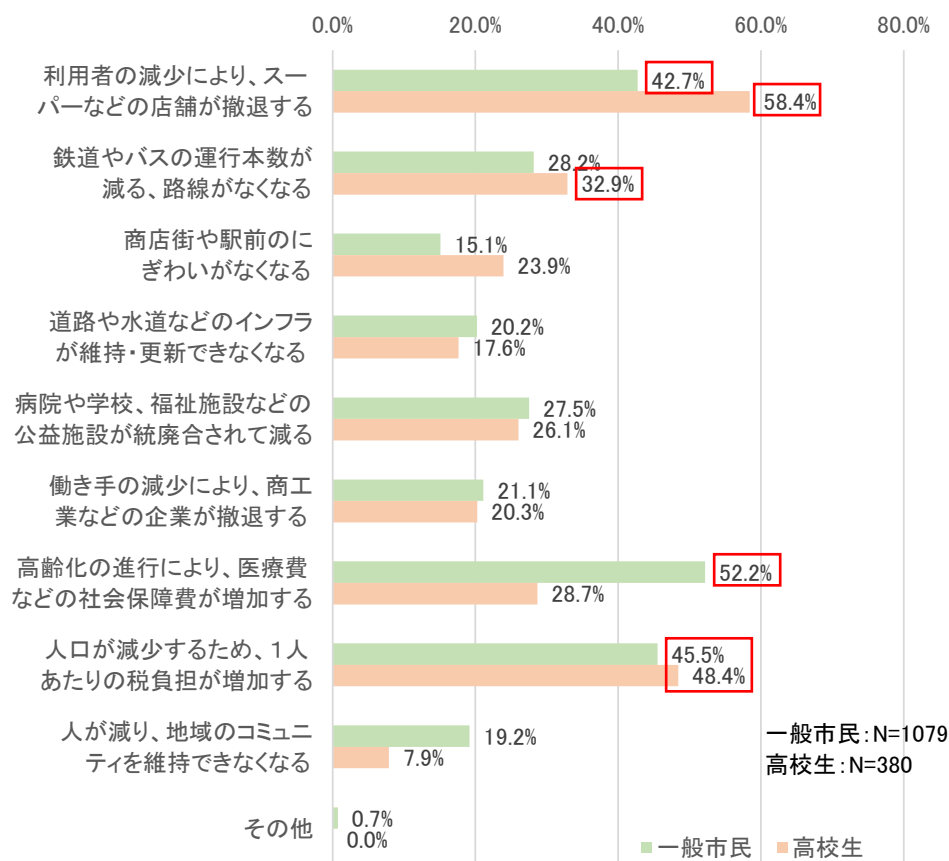


※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は 100%にならない。

(4) 人口減少・少子高齢化により日常生活に影響が生じると困ること

- 市民・高校生ともに「税負担の増加」や「スーパー等の撤退」が多く挙げられました。
- その他の上位意見は、市民で「社会保障費の増加」、高校生で「公共交通の減便・廃止」が挙げられました。

図 日常生活で影響が生じると困ること

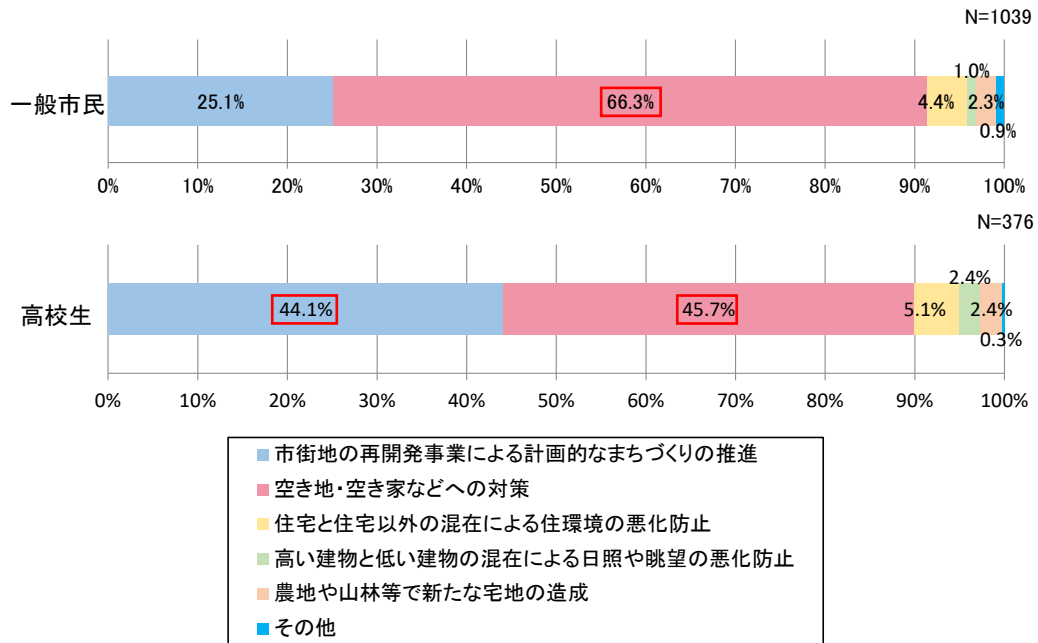


※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

（５）今後の住宅地のあり方

- 市民・高校生ともに「空き地・空き家などへの対策」がもっとも多く挙げられました。
- 高校生では、「市街地の再開発事業による計画的なまちづくりの推進」についても、「空き地・空き家」と同程度の意見が挙げられています。

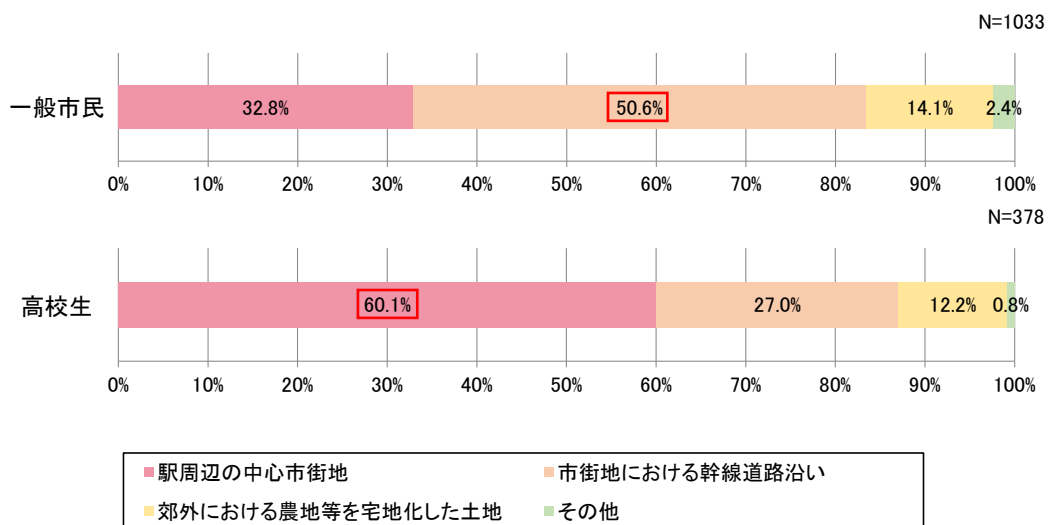
図 今後の住宅地のあり方



（６）商業地の集積地として望ましい場所

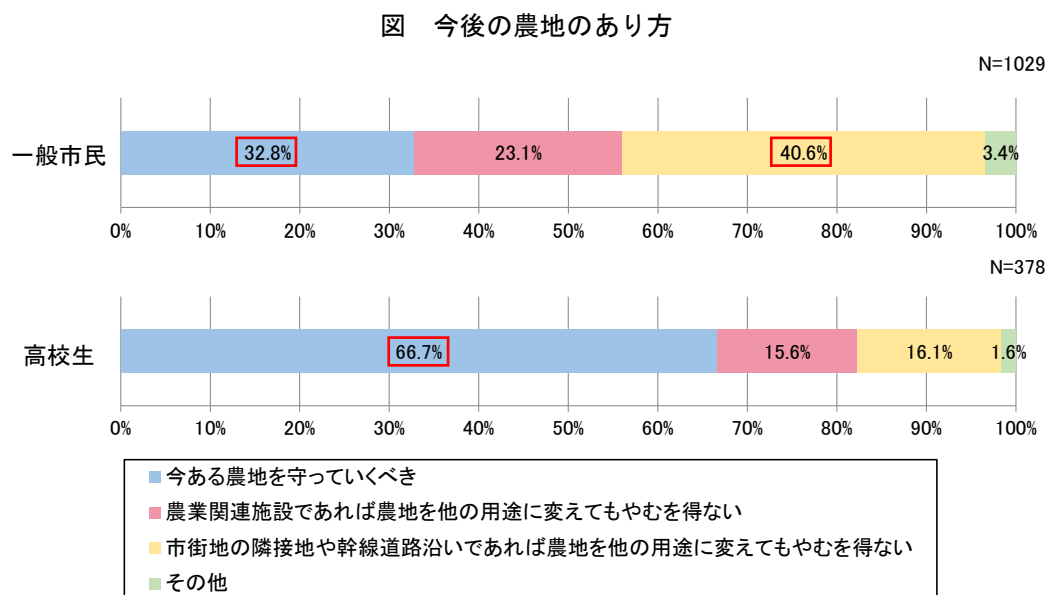
- 市民では、「市街地における幹線道路沿い」がもっとも多く、約50%を占めています。
- 一方高校生では、「駅周辺の中心市街地」がもっとも多く、約60%を占めており、市民との相違が確認されます。

図 商業地の集積地として望ましい場所



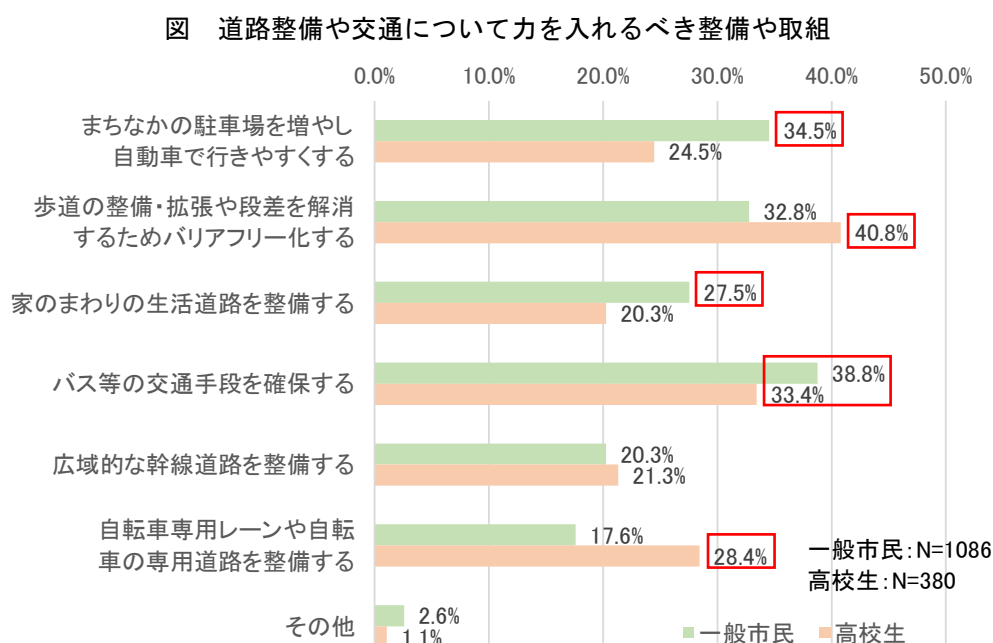
(7) 今後の農地のあり方

- 市民では、「市街地隣接地の幹線道路では他用途への転用もやむを得ない」がもっとも多く、次いで「今ある農地を守る」の順となっています。
- 一方高校生では、「今ある農地を守る」がもっとも多く、約65%を占めており、市民との相違が確認されます。



(8) 道路整備や交通について力を入れるべき整備や取組

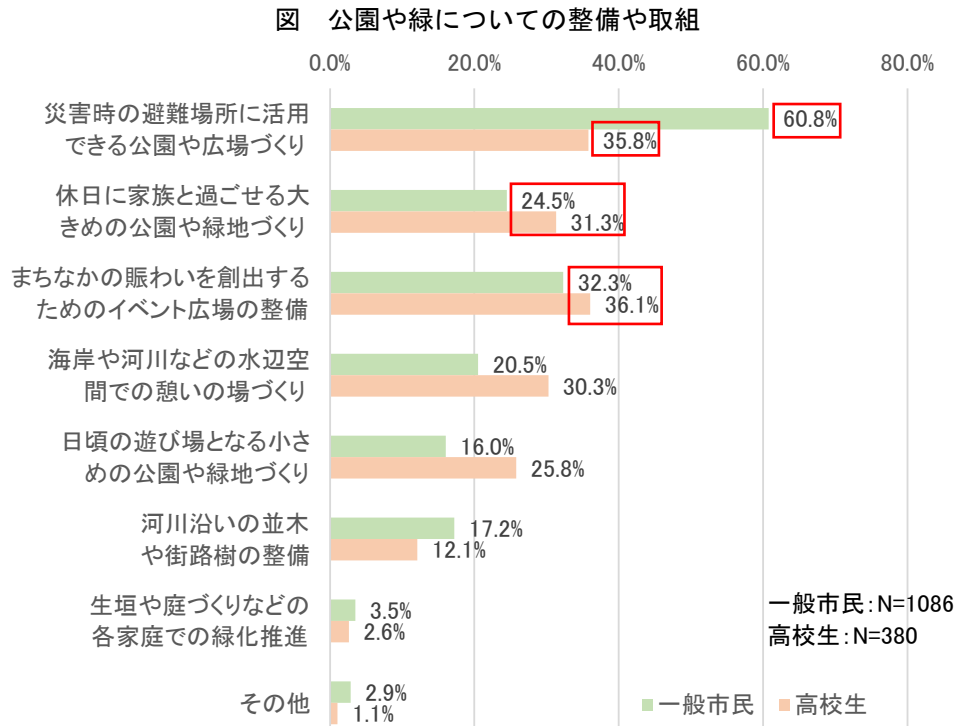
- 市民・高校生ともに「バス等の交通手段を確保する」が多く挙げられました。
- その他の上位意見は、市民で「まちなかの駐車場を増やし自動車で行きやすくする」や「家のまわりの生活道路を整備する」、高校生で「歩道の整備・拡張や段差を解消するためのバリアフリー化」や「自転車専用レーンや自転車の専用道路を整備する」が挙げられました。



※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

(9) 公園や緑についての整備や取組

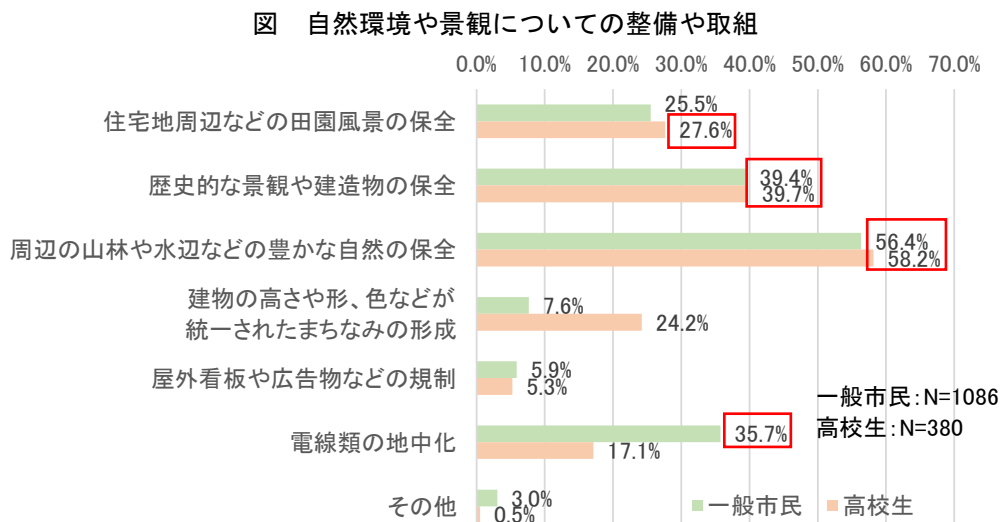
- 市民・高校生ともに「災害時の避難場所に活用できる公園や広場づくり」や「休日に家族と過ごせる大きめの公園や緑地づくり」、「まちなかの賑わいを創出するためのイベント広場の整備」が多く挙げられました。



※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

(10) 自然環境や景観についての整備や取組

- 市民・高校生ともに「歴史的な景観や建造物の保全」や「周辺の山林や水辺などの豊かな自然の保全」が多く挙げられました。
- その他の上位意見は、市民では「電線類の地中化」、高校生では「住宅地周辺などの田園風景の保全」が挙げられました。

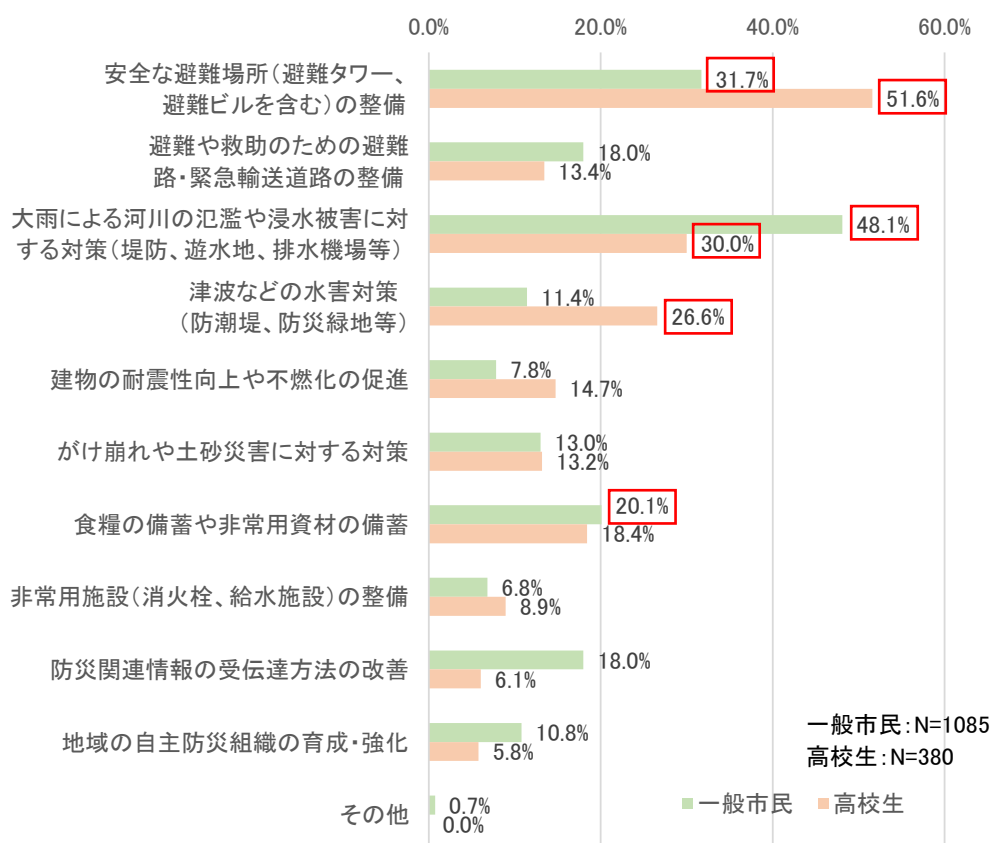


※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

(11) 都市防災についての整備や取組

- 市民・高校生ともに「安全な避難場所の整備」や「大雨による河川の氾濫や浸水被害に対する対策」が多く挙げられました。
- その他の上位意見は、市民で「食糧の備蓄や非常用資材の備蓄」、高校生で「津波などの水害対策」が挙げられました。

図 都市防災についての整備や取組

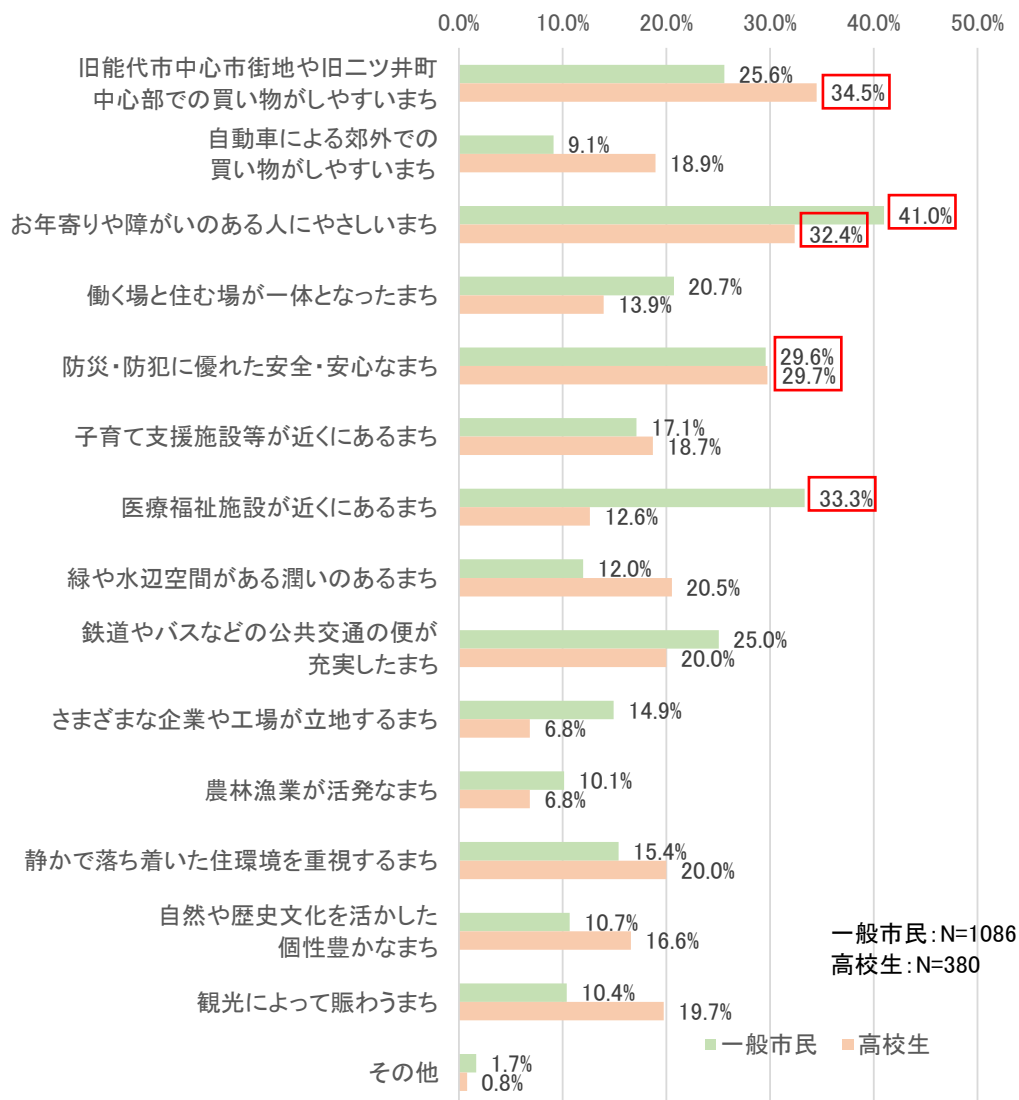


※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

(12) 20年後の能代市の望ましいイメージ

- 市民・高校生ともに「お年寄りや障がいのある人にやさしいまち」や「防災・防犯に優れた安全・安心なまち」が多く挙げられました。
- その他の上位意見は、市民で「医療福祉施設が近くにあるまち」、高校生で「市街地中心部での買い物しやすいまち」が挙げられました。

図 20年後の能代市の望ましいイメージ



※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

(13) 住み替えの意向

- 市民では、「現在地に住み続けたい」がもっとも多く、約70%を占めています。
- 一方高校生では、「可能であれば市外へ移りたい」がもっとも多く、約50%を占めており、市民との相違が確認されます。
- 高校生で「市外へ移りたい」と回答した人は、住み替えたい場所として「買い物・飲食が便利な地域」や「娯楽・交流施設が充実した地域」、「公共交通が利用しやすい地域」を多く挙げています。

図 住み替えの意向

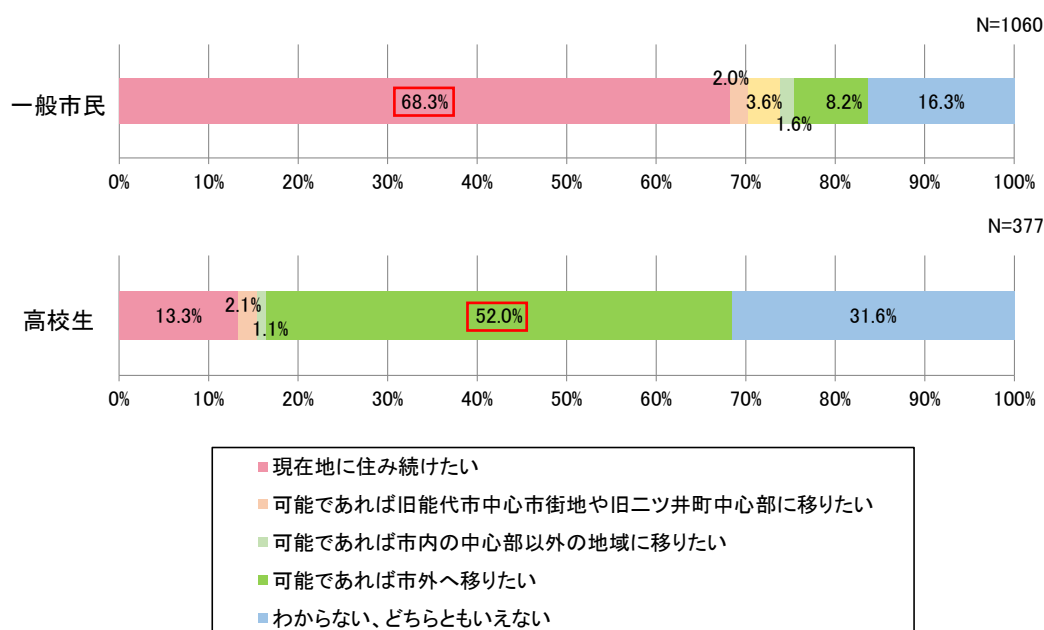
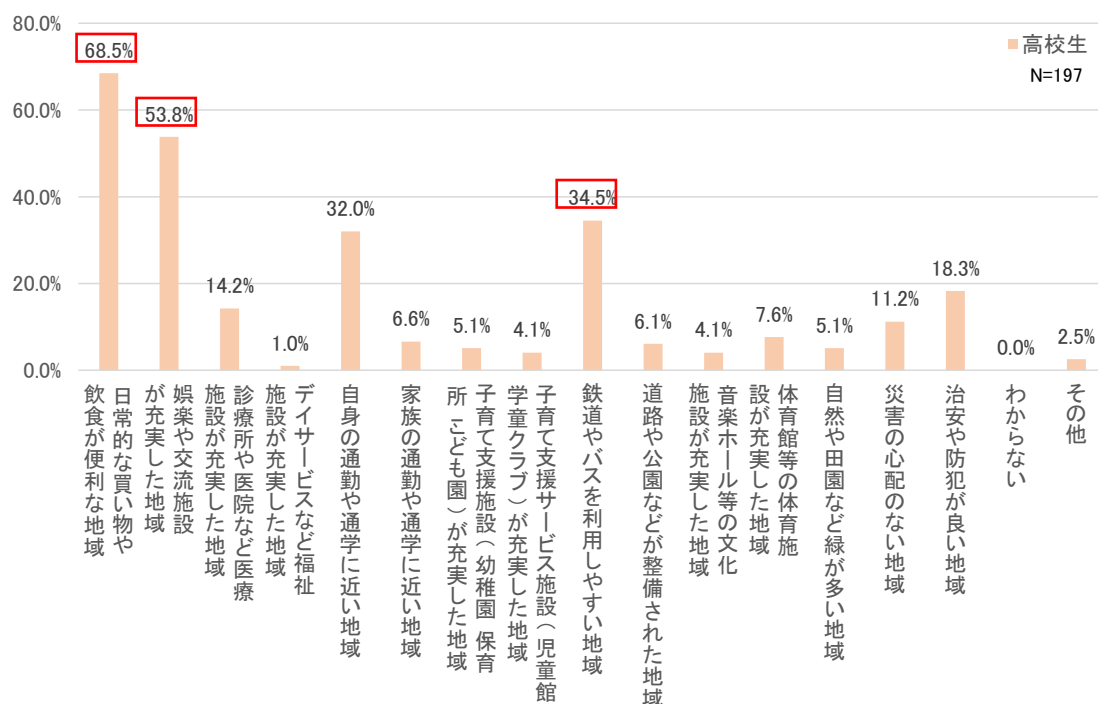


図 住み替えたい場所（高校生）



※上記グラフの集計は、回答者数に対する比率で、各選択肢の割合の合計は100%にならない。

(14) まちづくり活動に対する意向

- 市民では、「なんらかの形で参加・協力したい」が約 45%を占めています。
- 一方高校生では、「なんらかの形で参加・協力したい」が約 60%を占め、市民よりも積極的な参加姿勢が確認されます。

図 まちづくり活動に対する意向

